

バカと俺と召喚戦争

流離のコガラシ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

寝坊して遅刻してしまいFクラスになってしまった、真田（さなだ）昴（すばる）。先祖の真田幸村並みの、戦略を立てて勝つことができるか。Fクラスという非日常の日常をどうすごせるか？

初めてなので文がなっていないところもありますが、ご了承ください。

ムツツリーニ×工藤愛子もできればやりたい…

目次

11話	88	16話	137
10話	76	15話	126
9話	66	14話	117
8話	56	13話	107
7話	46	12話	96
6話	34	第一次試験召喚戦争編 開幕	
5話	25		
4話	21		
3話	13		
8			
2話			
第一次試験召喚戦争編 開幕			
俺と遅刻とみんなとの出会い	1		

俺と遅刻とみんなとの出会い

はじめまして。

わしはOhキド。みんなからはバカテス博士と呼ばれておるぞ。(そんなふうには呼ばれてないよ——)

この世界には召喚獣と呼ばれるオカルトのかたまりがいる。

そしてその召喚獣というオカルトのかたまりを人は戦わせたり殴らせたり…

そして…

私はこの召喚獣の研究をしてるといふ訳だ。

では、初めに君の名前を教えてください！

— 自分で決める

— 織田昂

— 真田昂

— 直江昂

— 伊達昂

— Ohキド —

こいつはこの小説の作者。君を書いた人でありお前の名付け人でもある。

・・・えーと？

名前はなんて言っただんじやったかな？

— 自分で決める —

— 悪シノビ —

— ∨ 流離のコガラシ —

— フアルコオオオオオオオオオオオオ —

— 三沢 —

— そうだそうだ！ 思い出したぞ —

流離のコガラシという名前だ。

真田昂！ いよいよこれから君の物語のはじまりだ。

夢と冒険と！ バカと俺と召喚戦争の世界へ！ レッツゴー

※これは転生ではありません。

桜舞い散る中、一人の少年が走る。

「やべー遅刻だわwww。まあ振り分け試験、遅刻しといて今頃なんだけど…」
そんなとき、少年の後ろから声が来る。

「おはよう。君見たことないね。ひよつとして振り分け試験寝坊したバカな転校生？」
見た感じバカっぽい少年だな。

「振り分け試験寝坊した、ただの転校生だ。」

なぜだかこいつにはバカ呼ばわりされたくないと思う。

「へえーやつばそうなんだ。あつ僕、吉井明久だよ。よろしくね」

「俺は真田昴だ。こちらこそよろしく。つてこんなことしてる場合じゃないぞ!!はやく行かないと、遅刻するぞ!!」

そう言つて少年は走る。

「真田に吉井。お前ら初日から遅刻ギリギリだぞ」↑西村先生

「あつ、すいません」俺

一応謝つとこう。この西村先生は、ゴリラとチンパンジーを融合したような人だ。

「失礼なことを考えるな。」↑西村先生

なんだこの教師は!?!俺の心を読みやがった。

「真田、お前は自分が何クラスか分かつとるよな。吉井これがお前のクラスだ!!」↑西村

先生

そう言つて封筒を渡す。

「真田、お前に話がある。吉井お前は先に行つとけ↑」西村先生

吉井が去つた後 西村先生が大きくため息をつく。

「真田、成績優秀なんだから、遅刻するな。朝、しっかり起きろ。なんなら俺が起こしてやつてもいいぞ」

このままでは、ホントに起こしに来そうだから胡麻化しておこう。

「いえ、大丈夫です。以後気をつけます」

といい逃げておいた。後ろからはまた、西村先生のため息が聞こえた。

そう。俺は振り分け試験を遅刻したため、Fクラスになつてしまったのだ。

Fクラスに近づく、と、「ダーリン」と声がした。

遅刻しといてなんだが、このクラスには入りたくないと思つてしまった。

「おつ、お前か振り分け試験、遅刻してこのボロイFクラスに入ることになったやつは」
「さすがに汚すぎるだろ」↑俺

「俺はFクラス代表、坂本雄二だ」↑雄二

「俺は真田昴だ。よろしく」↑俺

「あつ昴君だ。昴君もFクラスだったんだ」↑明久

「なんじゃ明久知り合いかのう？」

「今朝会っただけだ」↑俺

「紹介するよ。こつちが真田昴君で、この可愛い女の子が木下秀吉で、そのカメラ構えているのが、土屋康太で……」↑明久

「ちよつと待て明久よ。ワシは男じゃぞ。真田よ、ワシは男じゃからな」↑秀吉

そんな会話をしていると先生が入ってきてHRが始まる。

「ガラッ」

と扉が開き可愛い女の子が入ってくる。

「あのすいません、保健室に行つて遅れました。姫路瑞樹と言いますよろしくお願ひします」

「「「イヤホオオオおお」」」」

「何で姫路がここにいるんだ。Aクラスじゃなかったのかよ」

「そんなことどうでもいい。とにかくあの胸をみるよ」

「姫路さん結婚してー」

とバカ騒ぎになつてHRどころではなくなつてしまつていた。

2話 第一次試験召喚戦争編 開幕

調理の為に火にかける鍋を制作する際、重量が軽いのでマグネシウムを材料に選んだのだが、調理を始めると問題が発生した。

この時の問題点とマグネシウムの代わりに用いられるべき金属合金の例を一つ上げなさい。

姫路瑞希の解答

問題点： マグネシウムは火にかけると激しく反応する為危険であるという点。

合金の例： ジュラルミン

教師のコメント

正解です。合金なので『鉄』ではだめだというひっかけ問題なのですが、姫路さんは引っかかりま

せんでしたね。

吉井明久の解答

合金の例： 未来合金↑すごく強い

教師のコメント

すごく強いって言われても…

HRも終わったがクラスは、あいかわらずさわがしい。

「よかった。このままだとこのクラス、女子が秀吉一人のところだったってイターい何これ。頭蓋骨がミシミシいってるんだけど」↑吉井

「何がこのままだと女子が秀吉一人よ。」

「ごめん。島田さん。けどやっぱり、島田さんってFクラスなんだアー痛いよこれ以上強くしないで——」↑吉井

「何、私がFクラスがお似合いなの!!」

「落ち着いて二人とも」↑俺

つとつきに止めてしまった。

「何よ、転校生？まあいいわ。」

「ありがとう…。」↑吉井

吉井が死にそうだと。

「ウチは島田美並。趣味は吉井を殴ること」

「すごい趣味だな…。俺は真田昴だ」

そこに姫路が入ってきた。

「私は姫路瑞樹です。得意なことは料理です。」

「姫路さん何でFクラスなの」↑島田

「あつそれはですね、私生まれつき体が、弱くてそれでテスト中に倒れちゃったんです。」

↑姫路

「俺と似ているな」↑俺

「お前はただ寝坊して遅刻しただけだろ」↑坂本

「お前は黙つとけ。」↑俺

「ねえ雄二ちよつといい」↑吉井

「なんだゴミ」↑坂本

「ちよつと来て」↑吉井

そうやって坂本を連れて行ってしまった。
まあ気にすることは、ないだろう。

「お前らちよつと聞け！」 ↑坂本

いつの間にか、戻ってきた坂本がなんか言ってる。

「おめーら、こんな設備で不満はないか!!」 ↑坂本

「「大ありだ」」 ↑バカたち

「俺は、Aクラスに勝とうと思う。」 ↑坂本

「えー何言ってるの」 ↑バカ

「姫路に秀吉がいるなら何もいらぬ」 ↑バカ

さつき大ありだとか、行った奴がもう弱気になってる。

まあ、俺も無理だと思う。なぜならAクラスとFクラスでは、点数が圧倒的に違う。

「大丈夫。策はある。」 ↑雄二

普通なら反対だか、俺は歴史が大好きだ。圧倒的に不利でも、大軍勢に勝った武将は

いくらでもいる。現に俺の先祖の真田幸村もそういう人だ。だから

「下剋上か。面白い」↑俺

「昴、お前は賛成か」↑雄二

「ありがとう昴くん。」↑明久

「なんでお前が礼を言うんだよ…」↑俺

そういうことで、俺たちFクラスが、Aクラスに召喚戦争を挑むことになってしまった。

3話

問題（国語）

以下の意味を持つことわざを答えなさい

(1) 得意な事でも失敗してしまう事

(2) 悪い事があつたうえに、更に悪い事が起きる喩え

姫路瑞希の答え

『(1) 弘法も筆の誤り』

『(2) 泣きつ面に蜂』

教師のコメント

正解です。他にも(1)なら“河童の川流れ”、“猿も木から落ちる”、(2)なら“踏んだり蹴つたり”や“弱り目に祟り目”などがありますね。

吉井明久の答え

『雄二も木から落ちる』

教師のコメント

坂本君は猿ということでしょうか？おっと裏面に補足がありました。

『雄二は猿ではなく、ゴリラ』

坂本君は吉井君にとってゴリラ扱いなんですネ。

「坂本。ところでさっき言った、策ってなんだ？」↑俺

「ああそれか。それは、姫路だ」↑坂本

「たしかに姫路はAクラス並みみたいだけど、一人じゃ話にならないだろ。」↑俺

「姫路を甘く見てもらっちゃ困るぜ。姫路は学年の5本の指には、はいるからな。」↑坂本

確かに、5本の指に入るのは、すごいだろう。しかし、

「姫路、一人じゃ勝てんだろ。他に誰かいるのか？」↑俺

「ああもちろんだ。おいムツツリーニ来い。」

「なんだ。俺は忙しい。」↑土屋

忙しいと言ってるくせに、カメラで姫路のパンチラを狙っている。

「見ての通りだ。」↑坂本

「見ての通りってどういうことだ？しかもなぜ土屋がムツツリー二なんだ？」↑俺
 「ムツツリー二は、人よりも断然エロに興味があるのに、口では興味ないって言ってる。
 だから寡黙なる性識者（ムツツリー二）だ。」

「俺はエロになんか興味ない。」

すきま風が吹き込んできて、姫路のスカートがめくれる。

「ブツシャー————」↑土屋

「ムツツリー二————早く輸血を!!」↑吉井

土屋の鼻から鼻血が、勢い置く放出している。て言うか大丈夫なのだろうか。

「まっ、見ての通りだ。ムツツリー二はちよつとしたエロでも、鼻血をだしてしまふ。しかし性の知識が豊富で、そのせいか、保健体育だけはAクラスに匹敵する。」↑坂本
 なるほど。これからはムツツリー二って呼ぼう。そう言ってる間にも、吉井が輸血を
 終えている。なぜか手慣れているようだ。いつも、やっているからだろうか？

「あいつらのことは、ほつといて次に進めよう。他の戦力は、数学はBクラスの島田だ。」
 ↑坂本

「ハロハロー。ウチは数学はできるから、数学はまかせて。」↑島田

「まあ、他の教科はFクラスの平均だからな。」↑坂本

坂本がぼそつと、言っている。

「そして、我がFクラスのエース、明久だ。」↑坂本

「やつと僕の紹介か。」↑吉井

「吉井つて頭いいのか？」↑俺

「こいつは観察処分者だ。」↑坂本

「ん、それつてバカの代名詞じゃないの？」↑俺

「よく知っているな。」雄二、そこは否定してよ。」↑吉井

「バカなのは本当だろ。」↑坂本

「僕のどこがバカだつて言うんだい。」↑吉井

「あんたは全部バカでしょ。」↑島田

「島田さんまで……」↑吉井

「だったら、明久。大化の改新が起きたのは何年だ。」↑坂本

大化の改新といえば、無事故の改新で645年だ。

「ぼ、僕がそんなの間違えるわけじゃないじゃないか。」↑吉井

「だったら早く答えろ。」↑坂本

明久が難しい顔している。

「明久はこんなにも解けないほど、バカだ。しかし、観察処分者の召喚獣は、物理干渉能力があつて、教師の雑用に使われるため、操作がうまい。認めたくないが召喚獣操作は、学年で一番うまい。」

まあ、その代わりフィードバックがあつて召喚獣が、ダメージをうけると、自分もダメージを受ける。だから、生贄としてはサイコーなわけだ。」↑坂本

「ちよつと雄二。僕を生贄にする気、まんまんじゃないか!!。」↑吉井

「当り前だろう。俺は、お前が痛がつてるのを、見るのが大好きだ。」↑坂本

こいつら、二人は本当に、友達なんだろうか。

「ところで雄二よ。それだけでAクラスに勝てるほど、甘くないじゃろ。」↑木下

「俺も木下に賛成だ。これだけで勝てるとは思えない。」↑俺

「真田よ。」↑木下

「なんだ。木下。」↑俺

「ワシは、双子でのおう。まぎわらしくなるといけんから、秀吉と呼んでくれればよいぞ。」

↑木下

「わかつたよ。秀吉。ところでお前って双子なんだ。」↑俺

「そうじゃ。姉はAクラスにおけるのじゃ。」↑秀吉

「へー、Aクラスに……。お前とは大違いだな。」↑俺

「しかし、秀吉には演劇があるからね。」↑吉井

「演劇ねえ……」↑俺

「そんなことより、作戦を発表する。」

「作戦？」↑吉井

「ああ、まず今日はDクラスに試験召喚戦争を挑む。」↑坂本

「Dクラス？Aクラスじゃないの？」↑吉井

「今の戦力じゃAクラスに勝てない。お前は、こんなことも分からんのか。やっぱりバ

カだな。」↑坂本

「Dクラスに手を貸してもらおう、ということだろ」↑俺

「ほう。分かるやつがいたか。」↑坂本

「どういうことですか」↑姫路

「バカじゃないの。坂本も真田も。他のクラスと一緒に戦うなんて、できないことぐら

い知ってるでしょ。」↑島田

「島田、だからお前も、吉井みたいにバカなんだよ。」↑俺

「さり氣に僕が、バカにされたような。」↑吉井

「じ、じゃあどういふことか、説明しなさいよ!!。」↑島田

「このクラスが、Aクラスに勝つには、一騎討ちしかない。しかし、普通に交渉しても、危険な一騎打ちなんてしない。だから、Dクラスとかを使って、攻める姿勢を見せるんだろ。いくらAクラスだからって言って、雑魚を何回も倒すのは面倒だからな。授業が潰れて補習が増えるし。」↑俺

「けど、負けたクラスは、3カ月宣戦布告できないのよ。それぐらい、知ってるでしょ!!。」↑島田

「はあー。やっぱお前バカだな。追い詰めたところで、相手に和睦をさそってみるんだろ。だよな、代表さん。」↑俺

「説明する手間が、省けたな。こいつが言ったように、Aクラスには、一騎討ちでいく。だから、最低でもDクラスとBクラスぐらいは、利用したい。ということ、明久。さつそく今日の1時から試験召喚戦争が、できるように宣戦布告してこい。」↑坂本

「ちよつと待つて。下位クラスが上位クラスに、宣戦布告するときつて、絶対、ぼこられるよね。」↑吉井

「大丈夫。安心しろ。上位クラスがそんなことするわけないだろ。」↑坂本

坂本が見え見えの嘘を、言っている。さすがの吉井でも、

「そうだよ。じゃあ行ってくるよ。」

あっさりだまされてた。吉井、さつき坂本が、吉井が痛めつけられるのを見るのが大好きとか、言ってただろ。まあいいや。

「試験召喚戦争のルールや、召喚獣の扱い方があまり分からないから、誰か教えて。」↑
俺

「なら、これでも読んどけ。」↑坂本

召喚獣マニュアルという本を渡された。まあ、暇だし読んどくか。

召喚戦争のルールや召喚獣の使い方を、一通り読み終わったとき、ぼろぼろになった明久が戻ってきた。

4話

問題（物理）

以下の文章の（ ）に正しい言葉を入れなさい

『光は波であつて、（ ）である』

姫路瑞希の答え

『粒子』

教師のコメント

よく出来ました

土屋康太の答え

『寄せては返すの』

教師のコメント

君の回答には、先生はいつも度肝を抜かれます

吉井明久の答え

『勇者の武器』

教師のコメント

先生もRPGは好きです。

「雄二、僕を騙したな。」↑坂本

あれで、騙される吉井も吉井が。

「騙した？人聞きの悪いこと言ってるんじゃないねえ。お前、自ら生贄になりに行ったんだろ。」↑坂本

「今度は騙されないぞ。」↑吉井

今のに、騙すところがあつただろうか？

「お前の独り言に、付き合ってる暇はない。Dクラス戦の作戦を説明する。」↑坂本

吉井は相変わらず、怒っている。

「しかしじゃぞ。Dクラスつと言うても、こっちはFクラスじゃぞ。戦力の差は大きいのじゃ。」↑秀吉

「なに、たぶん大丈夫だ。」↑坂本

「大丈夫って何か根拠でもあるのよ。」↑島田

「それはだな、まだ初日だから、クラスの人の状況が分からない。そこで、姫路だ。」↑坂本

「わ、私ですか？」↑姫路

「そうだ。Dクラスだって、まさかFクラスに姫路がいるとは、思っていない。だが、姫路は今んところ0点だ。だから今回の作戦は、姫路が回復試験を、受ける時間を稼ぐことだ。そして、姫路の回復試験が終わったら、姫路で敵の代表を打ち取る。そのために、前線部隊と中堅部隊、本隊に分ける。前線部隊の隊長に明久、副官に島田、あとバカども5、6人連れて行っていいぞ。中堅部隊の隊長に真田、つと思つたがお前、振り分け試験、受けてないんだつたな。」↑坂本

「いや、大丈夫。最後らへんにきて、古文と数学だけは受けれてるから。」↑俺

「古文と数学か。まあ、姫路がいれば勝てるからな、死ぬ程度に頑張れ。」↑坂本
「死なない程度にしろ。」↑俺

「よし、中堅部隊の隊長を真田、副官を秀吉。あと、バカども5、6人連れて行っていいぞ。そして、本隊は俺副官に須川でも、置いとくか。」↑坂本

「坂本、お前が死ななかつたら負けなからな。今回は時間稼ぎだからな。俺は、初めてだから、今回はお前に任せるか。」↑俺

「なんだ、ずいぶん強気だな」↑坂本

「まあ俺は血筋的に戦略、考えるの得意だからな。」↑俺

「血筋的につて？」↑吉井

「いや、俺の先祖が真田幸村なんだ。」↑俺

「「ええー」」

「真田って名字珍しいけどさー。」↑島田

「意外だった」↑ムツツリーニ

「真田幸村は、秀吉に従ってたからな、俺も秀吉に従うかな。よろしく、秀吉」↑俺

「こっ困るのじゃ。第一ワシは男で…」↑秀吉

「冗談だよ冗談。」↑俺

「からかうのは、やめてほしいのじゃ。」↑秀吉

「照れてる秀吉は売れる…」↑ムツツリーニ

「売れるってどういうことだ？」↑俺

「ムツツリーニが盗撮したのを、裏で売ってるんだよ。」↑明久

女子にばれないよに、小声で言ってる。

てか、ムツツリーニすごいな、犯罪だぞ。

そんな、たわいのないこと？を話し時間が過ぎ、1時になった。

「てめーら。行くぞ。」↑坂本

「「「おうっ!!」」」

5話

問題（科学）

『ベンゼンの化学式を答えなさい』

姫路瑞希の答え

『C6H6』

教師のコメント

簡単でしたかね

土屋康太の答え

『ベン+ゼン=ベンゼン』

教師のコメント

君は化学を舐めていませんか

吉井明久の答え

『B—E—N—Z—E—N』

教師のコメント

後で土屋君と一緒に職員室に来るように

真田昴の答え

『C6H4C12』

教師のコメント

それはパラジクロロベンゼンです。

「みんないくよ。」↑吉井

「なんでお前についていかなきゃ、いけないんだよ。」↑バカ

「俺は、中堅隊で秀吉と、いつしよがよかった。」↑バカ

「なんなら、俺も回復試験で姫路と、いつしよに受けようかな。」↑バカ

みんな吉井の言うことを、聞く気がない。吉井を隊長にしたのは、まちがえじゃない

だろうか。

「ちつ、仕方がない。中堅隊も一緒に行ってくれ。」↑坂本

「おいおい、そんなんで良いのか？」↑俺

「今回は時間稼ぎが、目的だからな。姫路が回復すればいい。」↑坂本

「分かった。よし、行くぞおめーら。」↑俺

「えー真田かよ。」↑バカ

「真田つて誰だ。」↑バカ

誰もついてこようとしな。こんなクラスで大丈夫か？仕方がない秀吉に頼もう。

「おーい、秀吉様。」↑俺

「なんじゃ、真田よ。あと、ワシに様を、付けるにはやめてくれるかの。」↑秀吉

「あー、ちよつとこれを、バカたちに言ってくれるか。」↑俺

そう言つて、耳打ちをする。

「分かったのじゃ。」↑秀吉

これで大丈夫だろう。

「皆よ、ワシに続いて来るのじゃ。」↑秀吉

「任せとけ。」

「お前、さつき。行きたくないとか。言つてただろ。」↑バカ

「何を言ってる。俺は最初から、やる気まんまんだつたぞ。そんなことより、お前こそ……」↑バカ

「お前こそ何言ってる。俺は、最……」↑バカ

まったく、醜い争いが始まった。秀吉が一言、言うだけでこれなんだから。しかし、これで連中も戦うだろう。

「僕、もう死にたい。」↑吉井

そんな中、吉井がそう呟いてた。

教室を出ると、もうDクラスがそこまで来ていた。バカの争いを止めるのに、てこずつちやたな。仕方がない。

「試験召喚獣サモン。」↑モブたち

おっと早速、戦いか。召喚戦争では、相手に戦う意思があるのに、逃げたら補習になってしまう。助かったことに数学だ。それじゃあ、

「しゅ」試験召喚獣サモン」↑吉井、島田、秀吉

先を越されてしまった。

Fクラス 数学

島田 248点

吉井 23点

秀吉 35点

Dクラス 数学

モブA 162点

モブB 149点

モブC 135点

島田はさすが数学が得意なだけあってBクラス並みだ。相手もFクラスであんな高得点で、びつくりしている。

「なんで、Fクラスはバカの集まりじゃないのか!？」モブA

「しかし、よく見ろ。あとの二人は、米粒レベルだぜ。」モブB

その通りだ。吉井と秀吉は、いないに等しい。さすがはFクラス、よくこんな憎い点が取れるもだ。そんなことを、思っているうちに、島田が一匹倒している。吉井は使い慣れているだけあって、うまい。

「0点になったものは、補習!!」↑西村先生

西村先生が戦死した生徒を、かつぎあげている。なんだあの化け物は。鬼の補習なんて、嫌だー」↑モブA

鬼の補習って何なんだろう。あとで坂本にでも、聞いておこう。

「まずい、これでは俺も鬼の補習だ。援軍を頼む。」↑モブC

そんなことを、言っていると、島田が残りの召喚獣も切り戦死させる。

「いやだー。鬼の補習なんて〜」↑モブBC

いつの間にか戻ってきた、西村先生に二人ともかつぎあげて行かれる。だから何なんだ。あの教師は。

「ちよろいもんね。」↑島田

「さすがだな。しかし敵がまた来たぞ。」↑俺

「お姉様〜。美春が助けに来ました。」

「げっ、美春!!」↑島田

あれは誰だ？お姉様って島田のことか？

「どこにいるのです。お姉様のペツタンコの胸を狙う豚どもは!!」なるほど、そういうことか。

「島田、妹を大切にしてくれよ。」↑俺

「妹じゃない。これは清水美春。私の体を狙ってくる…」↑島田

「そんなことより、お姉様。一緒に豚どもを倒しましょう。」↑清水

島田も大変そうだな。吉井はというと…

「アキちゃん好きです。」

「ちよつと待ってよ。玉野さん。」↑吉井

何やってんだ。状況が全く読めない。

「早く召喚してください」↑モブ教師

「ほら、早く召喚しようよ」↑吉井

「仕方ないですは。」↑清水

「一二三試験召喚獣サモン」↑モブDと美春と玉野

Dクラス 数学

清水 132点

玉野 174点

モブDとF平均150点

これはちよつときつか。俺たちも、バカたちを連れてきたような…

すつかりビビって逃げていた。戦力にならねーな。これなら、吉井や秀吉のほうがまだましだ。

「真田、後ろから援護お願い。」↑島田

数学は、点数があるから、俺も戦うか。

「試験召喚獣サモン!!」↑俺

そう言つて、出てきたのが、両手に木刀で学ランだ。これじゃ吉井と同じだな。

「Fクラスの豚がいくら増えようとも…」↑清水

Fクラス 数学

真田 375点

「なんよ、あの点数!?!」↑清水

島田のBクラスで、驚くのだから無理もない。味方からもどよめきがおきる。

「すごいよ。昴君。昴君がそんなに頭いいなんて。」↑吉井

「すごいじゃ。ワシの10倍はあるぞ。」↑秀吉

まずは、清水の召喚獣に切りつけに行く。っとミスつて島田の召喚獣も一緒に切つてしまふ。

「なんですわのー」↑清水

Dクラス 数学

清水 0点

「何でウチもなのー。」

Fクラス 数学

島田 0点

あつ、ミスっちゃったなー。

「0点になったものは、補習!!」↑西村先生

「真田、おぼいてなさい!!」↑島田

「あーすまん。召喚獣の扱いこれが初めてで。」↑俺

「お姉様と一緒になら鬼の補習何て、へっちゃらですわー。」↑清水

西村先生にまた連れて行かれる。ごめんよ。わざとじゃないんだ。

そんなとき、

「遅れてすみません。試験召喚獣サモン!!」

姫路が到着したのであった。

6話

問題（英語）

以下の問いに答えなさい

『goodおよびbadの比較級と最上級をそれぞれ書きなさい』

姫路瑞希の答え

『good — better — best

bad — worse — worst』

教師のコメント

その通りです。

吉井明久の答え

『good — gooder — goodest』

教師のコメント

まともな間違え方で先生驚いています。Goodやbadの比較級と最上級は語尾に—erや—estを付けるだけではダメです。覚えておきましょう

土屋康太の答え

『bad | butter | bust』

教師のコメント

『悪い』『乳製品』『おっぱい』

「姫路さん、回復試験終わったんだね。」↑吉井

「そうだ。ちなみに俺もいるからな。」↑坂本

「雄二!!」↑吉井

「坂本。お前が何でできている!!」↑俺

なぜ坂本が、出てきている? あいつ自身、死んだらいけないことぐらい、分かっているはずだ。

「いやちよつと姫路を送りに…」↑坂本

しかし、姫路なら負けるわけないのだから、わざわざ送りに来なくても、大丈夫なは

ずだ。

「姫路さん、ゴリラなんかほつといて、一緒に戦いましょう。」↑バカ

「そんなことより、保健体育の実技しましょう。」↑バカ

…そういうことか。坂本は姫路をDクラスから、守るんじやなく、このバカたちから守るために、出てきたのか。さつき逃げたバカどもも、いやがる。

「理解してくれたか。」↑坂本

「ああ。嫌なほどにな。」↑俺

そんなことより、相手は驚いている。

「なんで、姫路がここに!?!」↑モブD

「Fクラスになんで姫路がー」↑モブE

そりゃ驚くよな。普通にやれば勝てる相手なのに、こんなに苦戦するんだからな。

「みなさん頑張りましょう!!」↑姫路

「「「ウオーー」」」↑バカたち

Fクラス 数学

真田 351点

姫路 423点

坂本 71点

吉井 14点

秀吉 8点

バカたち20人程度 平均50点

Dクラス

玉野 149点

モブDとF 平均150点

さすが5本の指にだけは入る姫路だ。こんな短時間に、よくこんなに点が取れるものだ。そして、姫路がDクラスに攻撃する。

Dクラス

玉野 0点

モブDとF 0点

「アキちゃ——ん。返事聞かせてください。」↑玉野

「「鬼の補習なんて。」」↑モブたち

西村先生が今度は、4人同時に担いでいる。だからなんなんだ、あの人は!?

圧倒的な強さで、その後も、敵を倒していく。すごいというより、えげつない。

そ し て

「なんで、姫路が!?ウギャー~~~~~!!」↑Dクラス代表 平賀源二

Dクラス 数学

平賀 0点

Dクラス代表

平賀源二 討死

あっけなく終わってしまった。

「『よっしゃー』」

F クラスは飛びあがり、生き残ったD クラスの人たちは、落胆した表情だ。

「D クラス代表さんよ。条件さえ飲めば設備は、交換しなくてもいいぜ。」↑坂本

「『なんだって』」↑D クラスの連中とF クラスのバカ

そうだ、この戦争は勝つのは前提で、あくまでも目的はD クラスに協力してもらうことだ。て言うかなぜF クラスが驚いている。さんざん説明されたら。

「おちついてほしいのじゃ。雄二にもいろいろあるのじゃろ。」↑秀吉

「そうですね。坂本君なりに考えがあるんですよ。」↑姫路

「秀吉と姫路がいうんじゃ仕方がない。」↑バカ

なんとかおさまってくれたようだ。でこっちはとうとうと…

「その条件とはなんだ。」↑平賀

「簡単なことだ。俺たちの狙いはA クラスのみ。D クラスなんかには用はない。だから、今度A クラスとするとき、俺の言うことを聞いてくれ。」↑坂本

「し、仕方がない。」↑平賀

条件を飲んでくれたようだ。

「よし、引き上げるぞ。」↑坂本

「ふう、やれやれ楽勝だったぜ。」↑バカ

「俺様のお陰だな。」↑バカ

戦いから逃げたバカどもが、よくそんなことが言えるもんだ。まあいい。それより俺の召喚獣の操作、下手すぎたからな。西村先生にでも頼んで練習させてもらおうかな。そんなことを思う俺であった。

そしてその後のみんな

補習室にて…

「お姉様と一緒に保健体育の実技しましょう。そして、元気な女の子を産んで暮らしましょう。」↑清水

「美春！ウチたちじゃ子どもは産めないのよ。」↑島田

「愛さえあれば、関係ありませんわー。」↑清水

「ウチと美春のどこに愛なんてあるのよーー」↑島田

「お前らうるさいぞ。補習6時まで追加だ!!」↑西村先生

「ひええええ」↑島田

そんななか

「アキちゃん。何で返事くれなかったんだろ。」↑玉野

一方同時刻の教室では

「ブルっ」↑吉井

「どうしたのじゃ明久よ。」↑秀吉

「いや、ちよつと寒気がしたただよ。」↑吉井

「おかしいのう。もう4月なのに寒いなんて。」↑秀吉

「バカだから仕方ないだろ。それより明久。試験召喚戦争中に、告られたって本当か？」

↑坂本

「「ガサツ」」

「雄二なに言ってるのさ。ほらみんな、武器離して。」↑吉井

いつの間にかFクラスの連中が覆面に黒のマントに鎌を持っている。

「坂本、どういうことだ？これ。」↑俺

「ああこれはな、FFF団だ。」↑坂本

「FFF団？」↑俺

「そうだ。女子と接点でもあったりするとああなる。告られたとなると、すごいものだぞ。」↑坂本

と、ニヤニヤしながら説明してくれた。

「坂本、お前吉井を売ったな。」↑俺

「あたりまえだ。」↑坂本

ホントにこいつら友達なんだろうか？

「お前は入ってないのか？」↑俺

「ああ。俺、自らやる必要もないしな。このクラスで入ってないのは、俺とお前と、秀吉に姫路に島田だ。まあしかし、姫路と島田に関しちやああだがな。」↑坂本

そう言つて指差した方を見ると

「吉井くーん。それつてホントですかー。」↑姫路

ものすごく怖い。紫色のオーラが見える。

「姫路さん誤解だよ。」↑吉井

そんなことを言つてる間に、FFF団にぐるぐる巻きにされている。

「姫路は嫉妬か？」↑俺

「ああそうだ。しかし、明久はバカだからきづいてないけどな。」↑坂本

「須川会長、準備できました。」

「よし、諸君、ここはどこだ？」↑須川

「最後の審判を下す法廷だ！」

「異端者には？」↑須川

「死の鉄槌を！」

「男とは？」↑須川

「「愛を捨て、哀に生きる者！」」

「宜しい。これより……2―F 異端審問会を始める。」↑須川

「被告人 吉井明久。 罪状 バカの分際で F F F 団幹部にして女性に告られた。」

「これをどう思う。」↑須川

「死刑」

「死刑」

「死刑」

「さっさと死ね。」

「よし、こいつが長く苦しむように殺してやれ。」↑須川

「「「イエッサー」」」

「まったく、こんなクラスでよく勝てたな。Dクラスに申し訳ないわ。これが日常の風景なんてすごいもんだぜ。俺までおかしくなりそうだわ、っと心から思ったのであった。」

ちなみにあとで生きていた、吉井に聞いてみたところ西村先生は、戦死者に「鬼の補習」を施して「趣味が勉強。尊敬するのは「宮金次郎」という理想的な生徒に教育し、通称『鉄人』らしい。俺も今度から鉄人って呼ぼう。

7話 吉井と姫路と愛妻弁当

以下の問いに答えなさい

『女性は（ ）を迎える事で第二次成長期になり、特有の体付きになり始める』

姫路瑞希の答え

『初潮』

教師のコメント

正解です。

土屋康太の答え

『初潮と呼ばれる生まれて初めての生理。医学用語では、生理の事を月経、初潮の事を初経という。初潮年齢は体重と密接な関係があり、体重が1.5kgに達する頃に初潮を見るものが多い為、その訪れる年齢には個人差がある。日本では平均12歳。また、体重の他にも初潮年齢は人種、気候、社会的環境栄養状態などに影響される』

教師のコメント

詳しくすぎです。

Dクラスへの試験召喚戦争の次の日、簡単に言うとは回復試験期間、1日目。この文月学園では召喚戦争後、2日間、回復試験期間がある。10教科、正確に言うとは総合科目いれて11教科、全部消費したとしても、2日間あれば十分、回復できる。そのかわり、授業の時間を減らすので補習の時間が増える。上位クラスが試験召喚戦争、したくない理由もここにある。現にここにも

「回復試験なんてやってられないよ。」↑吉井

「ったくめんどくさいのは分かるが、こちらから召喚戦争を挑んだのだ。しかたあるまい。」

「Aクラスを奪うためだ。少しは我慢しろ。そんなことよりお前は三角形の面積の公式でも覚えとけ」↑坂本

「なにを言ってるんだ雄二!!僕だって三角形の面積の公式ぐらい言えるよ。底辺×高さでしょ」↑吉井

「÷2が足りない。」↑ムツツリーニ

「・・・」↑吉井

「吉井、お前良く高校入れたな。」↑俺

「何を言ってるんだい昴君。僕はこう見えても頭良くてね。さっきのもアメリカン
ジョークだよ。」↑吉井

「坂本、こいつはそんなに頭が悪いのか？」↑俺

「ああ、どうしようもないぐらい屑だ。」↑坂本

「雄二、僕のどこがクズなんだい。365。どこから見ても美少年じゃないか。」

「明久よ。5。おおいじやろ。」↑秀吉

「実質5。…」↑ムツツリーニ

「もうみんな嫌い!!」↑吉井

吉井は正真正銘のバカだったようだ。

やっと午前の授業が終わった。このクラスだと真面目に受けているのが、俺と姫路と島田と秀吉だけだからな。他のやつらは、大体グラビアやエロ本読んでるし、ムツツリー

二は姫路のパンチラ狙ってる。坂本は自分の興味がないことは全くやらないから寝ている。というわけで俺と姫路と島田と秀吉だけで授業を受けている感じだ。しかし、島田は数学以外はバカで秀吉に関しちや全教科バカだ。だから結局のところ、俺と姫路だけが授業を受けている感じだ。教師たちも気の毒だな。こんなクラスに教えるなんて。まあそんなことは、どうでもいい。今はメシだメシ。

「いただきます。。。。ちそうさま。」↑吉井

今のはなんだ!?!食べ始めたかと思つたら、次には食べ終わったぞ。

「ああ、おなかすいた。」↑吉井

「どうしたのじゃ。明久よ。昼食があるじゃろ。」↑秀吉

「秀吉。もう食べ終わったよ。」↑吉井

「食べ終わったじゃと!!ちなみに明久よ。何じゃたんじゃ?」↑秀吉

俺も気になるところだ。あんな短時間で食べ終わるなんて…

「ああ、塩と水と油だよ。」↑吉井

えっなんて言つた?塩と水と油?聞き間違えたよな。

「すまん明久よ。もう一度言ってくれんかの。」↑秀吉

「塩と水と油だよ。」↑吉井

聴き間違えじゃなかったようだ。ちよつと待て塩と水と油つて…

「明久よ。塩と水と油って食べ物ではないじやろ。」↑秀吉

俺の疑問を秀吉が言ってくれた。

「いや実はね、ゲームに使っちゃってね。」↑

やはり吉井はバカだった。

「明久君。お昼ないんですか。」↑姫路

「うんちよつとね…」↑吉井

姫路の前ではいいところ見せたいのか、言い訳している。そうなってる時点んで、見苦しいのが分からないのか。

「よろしければみなさん。明日お弁当作ってきましようか？」↑姫路

「いいの!!姫路さん!!」↑吉井

吉井、目がキラキラしてるぞ。

「分かりました。じゃあみんなで明日のお昼、食べましよう。」↑姫路

というわけで明日は姫路が、みんなの分作ってきてくれることになった。そんなことより今日のメシだメシ。

そして次の日の昼

正確に言うとは復試験期間2日目。

「やったー姫路さんが作ってきてくれたの楽しみだな。」↑吉井

「瑞希、こんなところで吉井にアピールなんて…」↑島田

島田がぶつくさ文句言ってたのは興味ない。つというわけで俺たち（俺、秀吉、島田、坂本、吉井、ムッツリーニ）は屋上にいる。なぜ屋上かって？そりゃあFクラスで食べると命の危険にかかわるからだ。今は姫路が弁当を教室にとりに行って、俺たちは先に屋上に来ている。

「姫路の弁当かの。楽しみじゃの。」↑秀吉

「楽しみ…」↑ムッツリーニ

そういう俺も楽しみだったりする。昔から俺の両親は海外の仕事で弁当なんて自分以外で作ったことがない。

どんな弁当か楽しみだな。

「お待たせしました。」↑姫路

おい、いくら吉井のためだつて張り切りすぎだろ。おせち料理とかいれるやつじゃないか。

「瑞希…頑張ったわね。」↑島田

「よくこんな作つたな…」↑坂本

「すごい量…」↑ムツツリ—ニ

「はい、朝早くに起きて頑張っちゃいました。」↑姫路

「ありがとう。姫路さん。」↑吉井

「それじゃさつそくいただくとするか。」↑坂本

坂本がエビフライを取ろうとすると、横からムツツリ—ニがひよいつと横取りしてしまつた。

「おいムツツリ—ニ。人のをとるなこの野郎。」↑坂本

そんなことお構いなしにムツツリ—ニはエビフライを食べた…と同時に倒れた。ぶるぶると痙攣している。どつどつということだ。

「あれ土屋君どうしたのですか？」↑姫路

「ああたぶん、あまりのおいしさに倒れちゃんだよ。」↑吉井

吉井それは、無理あるぞ。さすがの姫路でも…

「そうなんですか。よかった」↑姫路

あつさりだまされた。おい姫路きずけよ!!ムツツリーニ青くなってるぞ。

「姫路に島田。二人ともお茶を買ってきてくれないか。」↑坂本

どうやら女子にはこの料理は食べさせないらしい。

「分かったわ。瑞希、行くわよ。」↑島田

女子がお茶を買いに言ってる間にどうするか。

「おい真田。これをどう思う。」↑坂本

「どうもこうもこれには毒が入っているようだな。しかも作った本人が入れたようだ

な。」↑俺

「どうするのじゃこの料理。」↑秀吉

「明久。どんなのにも勝つ最高のスパイスがある。」↑ムツツリーニ

「ムツツリーニ生きてたんだね。」↑吉井

「俺はこの程度じゃ死なない。」↑ムツツリーニ

そういつてるが実際は青くなつてふるえている。

「最高のスパイスとは愛だ。それさいあれば、どんな毒にでもか…て…る。ドサツ」↑

ムツツリーニ

「ムツツリーニーーーーー」↑吉井

とうとう向こうの世界に行ってしまったようだ。

「ムツツリーニ、愛さえあれば何でもできる!!。おりやー」↑吉井
といい坂本の口に突っ込む。

「ウグツ、グハツ」↑坂本

「何をするのじゃ明久よ。大丈夫かの。雄二よ。」↑秀吉

坂本は抵抗をやめている、とうとう向こうの世界に行ってしまったようだ。

「お待たせしました。っあれ?」↑姫路

姫路たちが戻ってきたようだ。

「お弁当ね。雄二がおいしいおいしいって言って食べちゃんだよ。」↑吉井

「よかった。けど明久君が食べてないんじゃないやあつそういえばデザート作ってきたの、忘れてました。今から教室に取りに行ってきます。」↑姫路

「げっ」

「ほらみんな喜びなさいよ。せつかく瑞希が作ってきてくれるのよ。」↑島田
なにも知らない島田がノー天気だったのであつた。

そしてその後、生き返った俺たちは、坂本と吉井が作った、女子には姫路の料理を食べさせない、つと言う条約に、勝手に加えられてしまった。

8 話

以下の問いに答えなさい

『人が生きていく上で必要となる5大栄養素をすべて書きなさい』

姫路瑞希の答え

『①脂質 ②炭水化物 ③たんぱく質 ④ビタミン ⑤ミネラル』

教師のコメント

流石は姫路さん。優秀ですね。

吉井明久の答え

『①砂糖 ②塩 ③水道水 ④雨水 ⑤湧水』

教師のコメント

それで生きていけるのは君だけです。

土屋康太の答え

『初潮年齢が十歳未満の時は早発月経という。また、十五歳になっても初潮がない時は遅発月経、更に十八歳になっても所長がない時を原発性無月経といい……』

教師のコメント

保健体育のテストは一時間前に終わりました。

さあつと回復試験期間も終わり、Bクラス戦だ。

「坂本、Bクラスとはどういう人たちだ？」↑俺

「Aクラスになれそうでなれなかった連中だ。代表が根本恭二だけあって、一番まとまりの無いクラスだ。」坂本

「一番まとまりのないクラス？まとまりのないのはFクラスの方が上だろ。」↑俺

「いや、Fクラスは一番まとまりのあるクラスだ。特に異端者を狩るときとかな……」↑坂本

確かにこのクラスはある意味まとまりがあるな。

「けど、まとまりが無いんだったら簡単じゃないの。」↑吉井

「すぐそう考えるからお前はバカなんだ。Bクラスの代表は評判は悪いが悪知恵があるやつだ。油断すると勝てない。つと言うわけで明久。Bクラスに宣戦布告してこい。」

↑坂本

「雄二!!今度は騙されないぞ。」↑吉井

「大丈夫だ。Bクラスは美少年好きが多いらしい。」↑坂本

おいおい坂本流石の明久でも…

「そうなんだ。言ってくるよ。」↑明久

…騙されていた。さすが学年一のバカだ。

「坂本、また吉井を犠牲にしたな。」↑俺

「いやー助かるぜ。簡単に騙されるバカがいて。」↑坂本

うん分かった。吉井と坂本は友達じゃ絶対じゃない。

「雄二!! また僕を騙したな!!」 ↑吉井

予想どおり吉井はボコボコで帰ってきた。

「あんなんで騙されるお前が悪いんだろ。」 ↑坂本

「そんなことより今回の作戦はどうする?」 ↑俺

「そんなことつてどういうことだよ。僕の体が心配じゃないの。」 ↑吉井

「全く興味ない。」 ↑俺

「もうみんな嫌い!!」 ↑吉井

「今回の作戦か。とりあえず姫路とお前で根元を倒すしかないからな。それまでの敵は

雑魚どもに任せるしかないな。」 ↑坂本

「簡単な作戦だな。大丈夫なのか?」 ↑俺

「安心しろ、こつちには秘密兵器がある。ムツツリーニ!!あの情報は確かだな。」 ↑坂本

ムツツリーニがどこことなく現れる。

「間違えない。早く死の鉄槌を加えてやりたい。」 ↑ムツツリーニ

なんか危険なワードが聞こえたような。

「落ち着け、行動を起こしては負ける。」 ↑坂本

なんだろう。作戦って?

「とりあえず一旦解散だ。あつ、真田とムツツリーニはちよつと残ってくれ。」↑坂本
俺とムツツリーニを除く他の連中は一旦解散となった。

「わざわざ残したつてことは、秘密兵器のことか？」↑俺

「ああそうだ。ムツツリーニの情報だが根元とCクラスの代表の小山は付き合っている。」↑坂本

「付き合ってる？別に高校生だから付き合うぐらい普通じゃないか？これのどこが秘密兵器に……まさか!!」↑俺

「ああそのまさかだ。このクラスのバカどもに情報流したらどうなる。」↑坂本

「間違いなく、根元を殺しに行くだろう。」↑俺

「ああだからそれを利用するんだ。」↑坂本

「坂本、つくづく思うんだが、お前つて外道だな。」↑俺

「どうも、真田にムツツリーニ、絶対にこの情報を流すなよ。すべてが水の泡になる。」↑坂本

「分かった。」↑俺

「了解……」↑ムツツリーニ

召喚戦争が始まったが予想どうりの苦戦だ。戦力配分は

前線部隊 隊長 吉井 副官 島田 バカ10人ぐらい

中堅部隊 隊長 秀吉 副官 武藤 バカ10人ぐらい

本陣 隊長 坂本 副官 俺 姫路+バカ10人ぐらい

偵察 ムツツリーニ

伝令部隊 隊長 須川 副官 影薄すぎて忘れた

だ。

「そろそろやるか。おー「失礼します」

だれだ？

「Cクラスのもんです。Bクラスからの伝言を預かってきました。」↑Cクラスの子

Cクラス？なんか危険な感じがする。

「要件を聞こうじゃないか。」↑坂本

「Bクラスが音楽室で、休戦協定を結びたいそうです。」↑Cクラスの子

「休戦協定ねえ。」↑坂本

「どうするんだ？」↑俺

「別問題ないからなあ。一応本陣のメンバー連れていくか。行くぞ姫路、真田。」↑坂本

「分かりました。」↑姫路

「分かった。」↑俺

あやしいが悪くない話だからな。

「来てくれたのかいFクラス。てつきり来ないかと思ったよ。」↑根元

向こうも護衛として5, 6人連れているが教師の姿が見えない。

「それより休戦協定の内容を教えろ。」↑坂本

「ああ明日の午前9時まで一旦休戦ということだ。悪くない話だろ。」↑根元
どうする坂本は。

「分かったぜ。明日の午前9時までだな。」↑坂本
というわけで協定を結んだ：

…ひどいもんだ。教室に帰るとシャーペンは折られ消しゴムは穴だらけだ。

「ふつなるほどな。」↑坂本

「どういうことだよ!!雄二!!」↑吉井

吉井が抗議している。確かにいきなり休戦で教室に戻ってみればこのありさまだ。

「見ての通りだ。俺たち本陣が協定作っている間によくここまでしたもんだ。」↑坂本

「ひどいもんじゃの。」↑秀吉

「けど誰がこんなことをBクラスのひとつが、僕たちと戦ってたよ。」↑吉井

「Cクラスの奴らだ。BクラスとCクラスは裏でつながってたんだ。」↑俺

「なんてひどいことを。」↑姫路

「そんなことよりCクラスが召喚戦争の準備をしている。」↑ムツツリーニ

「相手はどこなの？」↑吉井

「たぶんFクラスだ。」↑坂本

「つち、俺たちはいっぱい食わされたということか!!」↑坂本

「これからどうする。」↑俺

「作戦に変更はなしだ。しかし連戦はきつい、だから秀吉、Aクラスのお前の姉のふりして、Cクラスを挑発してきてくれ。」↑坂本

「なんじやと。」↑秀吉

「闘う相手を変えてもらうってことか。秀吉、頼んだぞ。」↑俺

「ちよつと待つのじゃ。そんなことしたらワシは姉上に…」↑秀吉

「たのむよ秀吉。」↑吉井

「そこまで頼むんじやったら断れんじやろ。わかつたのじゃ。やってみるのじゃ。」↑坂本

「頼んだぞ。秀吉。」↑坂本

「もとはと言えば雄二が油断してたのが悪いんだよ。油断するなつと言ったのは雄二じゃないか!!」 ↑吉井

「黙れカスが。まあ油断してたのは確かだな。しかし、やられたらやり返す。倍返しだ！」 ↑坂本

「半沢○樹だよねそれ。」 ↑吉井

「俺もあのドラマは好きだからな。この状況でぴったしの言葉だ。」 ↑坂本

「とにかく秀吉、頼むぞ。」 ↑俺

「任せてほしいのじゃ。」 ↑秀吉

そんな中姫路は何かを探しているようだった…

9話

以下の英文を訳しなさい

『This is the bookshelf that my grandmother had used regularly.』

姫路瑞希の答え

『これは私の祖母が愛用していた本棚です』

教師のコメント

正解です。きちんとできていますね。

土屋康太の答え

『これは』

教師のコメント

訳せたのはThisだけですか

吉井明久の答え

『☆●◆▽♪*—』

教師のコメント

出来れば地球上の言語で。

そして次の日

「秀吉。これを着てくれ。」↑坂本

そう言つて「女子の制服を渡す。なぜ女子の制服を持っている!?!さすがこのクラスは変態ばっかりだな。」

「分かったのじゃ」↑秀吉

そんなことも普通のように着るている。そんなんだから女つて思われるんだろ。なにが『ワシは男じゃ』だよ。

「着れたのじゃ。」↑秀吉

つて着替えるのはやつ!?!流石は演劇部、早業だな。

「秀吉が女子の制服着てるぞ。」↑バカ

「秀吉!! やつと自分が女の子だつて分かったんだね。」↑吉井

「これは売れる……」↑ムツツリーニ

「明久よ。ワシは男じゃぞ。あとムツツリーニよ。カメラで撮るのはやめてもらえんかの。」↑秀吉

流石はFクラス。バカたちはやつと秀吉が女の子だつて分かってくれたつて喜んでるし、ムツツリーニは鼻血だしながら激写している。

「おい。秀吉。作戦結構だ。頼んだぞ。」↑坂本

「任せるのじゃ。」↑秀吉

やつとなり済まし作戦が始まるようだ。

「ここからは、俺たちはついていけない。お前に任せた」↑坂本

「できる限りのことはしてみるのがじゃ。」↑秀吉

結局、見に来たのは、俺、坂本、吉井、ムツツリーニ、島田だ。姫路は忙しいようだっ

た。

「秀吉ってそんなにすごいのか？」↑俺

「まあ見とつけて。」↑坂本

いまさらだけど大丈夫なんだろうか。

「失礼するわ。」↑秀吉

「なに？あなたはAクラスの木下さん。Aクラスが何か用？」↑小山

見た目は大丈夫のようだ。そんなに似てるのだろうか？

「あなたたちのようなゴミが学校にあると思うと不愉快なの。」↑秀吉

「なに!？」↑小山

あれはホントに秀吉なんだろうか？俺の知ってる秀吉はあんなこと絶対に言わない。

「ちよつと頭が良いってだけで調子乗りすぎじゃないの。」↑小山

「ゴミの分際で生意気だわ。ゴミはゴミのあるべき場所にあるべきだわ。面倒だけれ

ど、近々、あなたたちゴミに宣戦布告するわ。ゴミはゴミらしく生きればいいのよ。

じゃあね。」↑秀吉

「みんな!! FクラスなんかにかまってるしないでAクラスに宣戦布告するわよ!!」↑小山

どうやらうまくいったようだ。それにしても秀吉、全然違和感なかったな。だてに演劇部のエースじゃないようだ。

「秀吉、お疲れ。」↑吉井

「どうやらうまくいったようじゃ。」↑秀吉

いつもの秀吉に戻っている。

「フツ、短気な代表で助かるぜ。」↑坂本

「お前は相変わらず外道だな。」↑俺

「まあな。それよりももう少しで俺たちの召喚戦争が始まる。教室に一旦戻るぞ。」↑坂本

まあ昨日と同じで苦戦だ。

「よし、そろそろやるか。おー「雄二!!」」↑吉井

「なんだゴミ。戻ってくんな。死ぬまで戦え。」↑坂本

おい、それは戦時中の日本と同じだぞ。それよりなぜ戻ってきた？吉井は前線部隊の隊長のはずだ。

「そんなことより、あつ今姫路さんいないよね。」↑吉井

見渡してみたがない。どこいったんだろ？

「トイレじゃねいか？そんなことより要件を言え。」↑坂本

「わかった。今回の召喚戦争から姫路さんはずしてほしい。」↑吉井

姫路を戦線から外す？一体何のつもりだ？

「姫路を戦線から外す？一体何のつもりだ！」↑坂本

坂本が一字一句同じで言ってくれた。最後のビックリマークだけ違うが。

「それは言えない。けど外してほしい。あと根元くんの制服がほしい。」↑吉井

「吉井、お前そんな趣味に……」↑俺

「違うよ。僕はちゃんと女の子が好きだよ。お願いだよ雄二」↑吉井

「チツ、仕方がねえ。お前がそこまで頼むんだつたらよつぼのことだろう。しかしそ

の代わりお前が姫路の代わりをしろ」↑坂本

「ありがとう、任せてよ」↑吉井

「真田。念のためついていけ。」↑坂本

「いいのか？俺がいつたらどう闘うんだ？」↑俺

「いやもうお前たち託した。俺たちは時間稼ぎでもしよう。」

「死ぬなよ。」↑俺

「任せろ。おーい須川これを放送で…」 ↑坂本

まあ大丈夫だろう。そんなことより

「吉井、行くぞ。」 ↑俺

「分かったよ。」 ↑吉井

というわけで俺たちはCクラスにきている。なぜだつて？吉井いうに

「この隣はBクラスだからこの壁を破れば奇襲ができるよ。」 ↑吉井

つとと言うことらしい。しかもCクラスはAクラスと召喚戦争中だ。人はだれもいない。

「壁を破るつていつたてコンクリートだぞ。」 ↑俺

「あまいな昴君。僕の召喚獣は物理干渉を持つてるからね。」 ↑吉井

ドヤ顔がうざい。確かに召喚獣は1点でも人間の10倍から20倍はあるらしい。

「真田君は、見張りをしといて。」 ↑吉井

そんなとき、ついに例の作戦だ。

「全FFF団員に告ぐ!!根本ははCクラス代表小山と付き合っている!!この異端者を抹

殺せよ。繰り返す全FF F F団員に告ぐ!! 根本はCクラス代表小山と付き合っている!!
この異端者を抹殺せよ。」↑放送(須川)

「「殺せー」

「ゆるさん、彼女がいるなんて!!」↑バカ

「絶対殺す。」↑バカ

「敵はBクラスにあり。」↑バカ

ガサツ

「おい、吉井。どこ行くんだ。」↑俺

「いやね、ちよつと用事を思い出して…」↑吉井

間違はなく根元のところに行くんだろう。坂本が吉井について行かせた理由は逃がさないためだろう。ならその期待にこたえますか。

「お前の用事はこの壁を壊すことだ。」↑俺

「けど、昴。根元君に彼女がいて悔しくないの。」↑吉井

「なんで俺が赤の他人の恋愛に、首を突っ込まなきゃならないんだよ。それより姫路がどうなってもいいのか?」↑俺

「ど、どうしてそのことを!」↑姫路

こいつばれてないだけでも、思ったのか? 誰でも、お前の様子を見れば、姫路に何かあつ

たのかつて思うぞ。

「早く壁を壊すぞ。じゃないと根元の制服がゲットできないぞ。」↑俺

「そうだね。根元君を殺したいけど、まずはこの壁を壊すことのするよ。」↑吉井

つと言い忘れたがちやんとここには、立ち会いの教師がいる。

「なにブツブツ言ってるの？早く始めるから見張りよろしくね。遠藤先生召喚許可お願いします。」↑吉井

「今回だけですからね。」↑遠藤先生

遠藤先生は生徒に甘い先生として有名だ。でなきやこんな作戦できない。

「試験召喚獣サモン!!」↑吉井

Fクラス 英語

吉井 24点

相変わらず低いな。俺も見張りでもするか。

ハロハロー。流離のコガラシだよ。今回から好きな武將を紹介するコーナーだよ。さて今回は、今作主人公、真田昴君の先祖、真田幸村だよ。「真田幸村」の名で広く知られているけどね、この頃の史料では「幸村」の名が使われているものは無く、実名においては「信繁」が正しいんだよ。幸村親子はね、徳川家康の野郎を何度も苦しめたすごい人なんだよ。大坂の陣では、豊臣がたについてね、特に冬の陣では真田丸と呼ばれる土作りの出城を作って、鉄砲隊を用いて、徳川勢に大打撃を与えたんだよ。

真田家の家紋である六文銭はね、冥銭を表しているといわれているんだよ。冥銭とは、三途の川を渡るときの船の渡し賃なんだって。これから分かるように、幸村たちはいつ死んでも構わないという信念を持っていたんだね。

10話

問題 現代国語

次の()に当てはまる語を書き、その四字熟語の意味を答えなさい。

一日千()

姫路瑞希の答え

一日千(秋)

意味：非常に待ち遠しいことのとえ。ある物事や、人が早く来てほしいと願う情が非常に強いこと。

教師のコメント

流石は姫路さんですね。

吉井明久の答え

一日千(円)

意味：一日千円は贅沢だ。(僕は一日百円)

教師のコメント

頑張って暮らしてください。

バカテストのネタがつきて、目の前がまっくらになった。

そして一方の廊下では…

「根元を殺せ——!!」↑バカ

「異端者には死の鉄槌を!!」↑バカ

「あいつら鬼の補習が怖くないのかよ。」↑モブA

「つく、仕方がない、試験召喚獣サモン!!」↑モブB

「「「「「「試験召喚獣サモン」「「「「「」」

Fクラス 化学

バカたち30人ぐらい 平均 50点

Bクラス 化学

モブA〜D 平均 250点

「邪魔するものは全員殺せ——!!」↑バカ

「「「うわー——」」」

Bクラス 化学

モブA 0点

モブB 0点

モブC 0点

モブD 0点

「戦死者は補習!!」↑鉄人

「鬼の補習は嫌だー」↑モブA

「死にたくないよ——」↑モブB

抵抗するものもいれば、あきらめるものもいる。

「安心しろ。趣味は勉強。尊敬する人は二宮金次郎にしてやる。」↑鉄人

「「ちつとも安心できネ——」」」

「進むのだ、異端者に死の鉄槌を!!」↑バカ

「こうして戦死者は増えていくのであった…。

そして戻ってCクラスに：

ゴン、ガン、ゴン

「痛いよ、痛いよ。」↑吉井

そりゃ痛いだろうな。召喚獣が殴ってるとはいえ、フィードバックが付いているのだから。

「我慢しろ。あと少しだ。それに姫路のためだろ。」↑俺

「分かったよ……」↑吉井

ガン、ゴン、ガン

そして一方の根元軍

ゴン、ガン、ゴン

「つたく、やかましいな。」↑根本

「たぶん嫌がらせだと思うぞ。」↑モブ

「こんなんで俺が乱れるとも思ったか？」↑根本

(思いつきり乱れてるじゃん) ↑モブ

「ん、なんか言ったか？」↑根本

「いや、何も：(文句言ったら切れるもんなこいつ)」↑モブ

「それよりどういうことだ。Bクラスの連中がFクラスごときに死んで行くなんで。」↑
根本

「なんかFクラスの連中は戦死を恐れてないらしいぞ。」↑モブ

「なるほど。バカならではの作戦か。つたく、うっせーな」↑根本

ゴン、ガン、ゴン、ゴカアア、ガラガラ

ついに壁が崩れた。

「やった。道が開けたよ。」↑吉井

「奇襲は予想してたが、まさか壁を壊すとは……しかしこつちにはまだ人がいる。行けお前ら!!」↑根本

まずい、いくら俺でも5人と相手するのはきつい。坂本たちは廊下でぎりぎりで踏ん張ってくれてる。

「」「試験召喚獣サモン!!」「」「」↑モブたち

仕方がないこうなったら

「吉井、戦うぞ。」↑俺

「分かったよ」↑吉井

「試験召喚獣サモン!!」↑俺&吉井

Bクラス 現代社会

モブ E〜I 平均250点

Fクラス 現代社会

真田 292点

吉井 34点

吉井がうまいからといって戦力差に違いがありすぎる。このままでは負ける。

パリ——ン

窓を割ってはいって来たのは保健体育の教師の大島先生、それにムツツリーニだ。

「ムツツリーニ!?」↑吉井

「根本は俺に殺らせる。そつちは頼んだ。」↑ムツツリーニ

いま根本の護衛は全員こつちに來ている。

「大島先生。召喚許可を。」↑ムツツリーニ

「分かりました。召喚許可を出します。」↑大島先生

「試験召喚獣サモン」↑ムツツリーニ

「つくそ、試験召喚獣サモン」↑根本

Bクラス 保健体育

根本 242点

Fクラス 保健体育

土屋 444点

「加速…」↑ムツツリーニ

Bクラス 保健体育

根本 0点

「勝者Fクラス!!」↑大島先生

「おーやっと終わったか。」↑坂本

「坂本、何かお前らに託しただ。こんな秘密兵器隠しといて。」↑俺

「あー悪い悪。」↑坂本

結局俺たちも困でしかないってわけが。

「Fクラスに負けるなんて…」↑根本

「条件を飲めば和平交渉してやってもいいぞ。」↑坂本

「『なんだって』」↑モブたち

「ああ、俺らの目標はAクラス1つ。だから今度Aクラスに戦う姿勢を見せてほしい。後、お前たちの代表に、これを着てくれればいいぞ。」↑坂本

そういつて取り出したのは、女子の制服だ。

「俺にこれを着ろだと。絶対よ」「俺たちに任せろ。」「↑Bクラスの人たち

相当、嫌われていたようだ。やはり共通の敵を作るとまとまる。

「おい、ちよつと待てよ。」↑根本

「往生際が悪いな。さつさと着替えさせるぞ。」↑坂本

「手伝いましょうか。」↑モブW

「ああ、頼んだ。」↑坂本

「可愛くしてあげてね。」↑吉井

「無理。土台が腐ってるから。」↑モブW

「お前ら絶対、覚えとけよ。」↑根本

女装姿で言われても全く迫力無いぞ。

「はい、姫路さん。」↑吉井

そう言つて根本の制服から手紙を出す。なるほどな。姫路はこれを取られていたのか。

「ありがとうございます。吉井君。」↑姫路

「別にいいんだよ。」↑吉井

ビリビリ

「あつ。」↑吉井

「良いんです。こんなのに頼らなくても、自分で伝えますから。」↑姫路

「うまくいくといいね。」↑吉井

「はっ、はい。」↑姫路

吉井、そんなに残念がるな。姫路の好きなのはお前だ。ちなみに島田もお前のこと好きだぞ。つて島田はどこ？

「島田はどこ行ったんだ？みんなで喜びを分かち合っているときに。」↑俺
「美並はねなんか廊下で戦ってるときに、教室から木刀が飛んできてね。それにあたつて今、補習中らしいよ。」

うん、その木刀投げたの俺だ。

回想シーン

ムツリ―ニが根本を打ち取るまで、時間を稼ぐか。まずはあいつから、

「とりゃあ!!」↑俺

ひゅん

あ、しまった木刀がすっぽ抜けた。

「きゃー」

まずい誰かにあたちゃったな。やっぱり鉄人をお願いして召喚獣の練習するか。

「勝者Fクラス!!」↑大島先生

おつ、ムツリ―ニ勝ったのか。さすがは寡黙なる性識者。保健体育だけは強い。

回想シーン終了

あーあの時当たったのって島田だったか。悪いことしたなー。けどばれたら殴られ

そうだから黙つとくか。

一方その頃の補習室

「何で木刀が飛んでくるのよ。あれさえなかったらウチだつて……。あー古文難しい。」↑

島田

「お姉様く教えて差し上げますは。」↑清水

「ありがとつて美春!?!なんであんたがここにいるのよ!!」↑島田

「特別に入れてもらい、お姉様の小さな胸を狙う豚どもから、守りに来ましたわく。さあ保健体育の実技をしましょう。そして元気な男の子を生みましょう。」↑清水

「ウチとあんたでは、子どもは産めないのよー。」↑島田

「愛さえあれば関係ありませんはく」↑清水

「いやー」↑島田

「お前らうるさいぞ。補習2時間追加!!」↑鉄人

「なんでこうなるのー」↑島田

こうして俺たちはBクラスに勝ったのであった。

はろはろ、流離のコガラシだよ。さーて今週の武将紹介は。三国志から、曹操さんだよー。曹操さんはね後漢の丞相・魏王で、三国時代の魏の基礎を作ったすごい人なんだよ。日本では悪役扱いだけど、中国では英雄とまで言われて人気あるんだよ。しかもこの人、戦ではほとんど負けなしなんだよ。あの呂布にも勝ったんだよ!!なんかね奇襲・伏兵を用いた戦い得意らしい。最終的には中国北部全域を支配するまでに勢力を拡大しているんだよ。しかもこの曹操さん戦だけじゃなく政治や詩人なんかでも有名なんだよ。流石は乱世の英雄だね。

11話

問題（国語）

次の漢字を読みなさい。

馬鹿

姫路瑞樹の解答

ばか

教師のコメント

姫路さんとは正反対のことですね。

吉井明久の解答

うましか

教師のコメント

あなたのことです。

坂本雄二の解答

よしいあきひさ

教師のコメント

・
・
・

そしてAクラス戦が始まった。えっ？いきなりなんだって。回想シーンをくれだつて？分かった。

回想シーン

「よし、いよいよ今日はAクラスに、試験召喚戦争を挑む。これで俺たちもシステムデスクだ。」↑坂本

時間としては一週間だが、色々ありすぎて長かったな。

「まずはAクラスに宣戦布告してくるぞ。」↑坂本

「雄二。今度こそヤダからね。」↑吉井

「当り前だ。誰がお前なんか頼むか。お前みたいな脳なしに、頼んだら勝てるもんも勝てるか。」↑坂本

「そういうことだ吉井。お前がいると作戦に支障をきたす。留守番でもしとくんだな。」↑俺

吉井がいたら作戦がばれるかもしれない。

「もうみんな嫌い!!」↑吉井

「ほっといて行くぞ。」↑坂本

「ちよつと待つてよー。誰も慰めてくれないのー。」↑吉井

向こうの交渉相手は木下優子だ。双子でも普通ここまで似てるか？秀吉が女子の制服着れば、全く分からんぞ。

「Cクラス戦お疲れさまよ。」↑坂本

「ふん、あんなのAクラスにとつて敵じゃないわ。」↑木下

「流星はAクラス様ってわけか。」↑坂本

「そんなことより、さっさと用件言いなさいよ。」↑木下

「ああそうだな。俺たちFクラスはAクラスに召喚戦争を申し込む。」↑坂本

「あらかじめ分かっているから、動揺はしない。ていうか、性格が全然秀吉と違うな。秀吉は穏やかだが、木下はツンツンしている。

「召喚戦争は7対7で申し込みたい。」↑坂本

「ダメに決まってるじゃない。AクラスがFクラスに負けることは絶対ないけど、一つて言うのがあるから。」↑木下

木下も交渉としてきている訳だから、下手な交渉はできない。

「俺たちはDクラスともBクラスとも和平で試験召喚戦争を終わらしている。しかもその二つともAクラスをねらっているんだぞ。これからのことも考えてるんだぜ。」↑坂本

「でも…」↑木下

「それでいい。雄二の言うとおり7対7でいい。」

「おつ、やっとAクラス代表のお出ましか。このAクラス代表霧島翔子は噂では、男子に興味がなく、姫路のことが好きらしい、あくまで噂だけ…」

「代表!?!」↑木下

「雄二、条件はそれでいい。その代わり勝った方の言うことを、何でも一つ聞くならい

い。」↑霧島

「分かったそれでいいぞ。」↑坂本

「ちよつと待つてよ。姫路さんの許可を得てから……。ムツツリーニ、準備はまだ早いよ。」↑吉井

「ボタボタ、カメラの準備、完璧……」↑ムツツリーニ

相変わらずエロに関しては早いな。鼻血が出るのもそうだけど。

「ムツツリーニ、負ける気満々じゃないか。……うまく取れたら頂戴ね……」↑吉井

「吉井、何気に頼んでるぞ。」↑俺

「お前から何言つてんだ？まあいい、今日の2時からスタートな。」↑坂本

「分かった……」↑翔子

「坂本、7対7なら誰が出るんだ。」↑俺

「俺にお前それに姫路にムツツリーニは決定だ。」↑坂本

「仮に俺と姫路とムツツリーニが勝てたとしよう。あと一勝はどうするんだ。それに何で5対5にしなかつた？」↑俺

「5対5にしなかつたのは作品の都合だ。深追いしてはいけない。」↑坂本

何言つてんだ。作品の都合つて？深追い禁止つてどうということだ。

「それに後一勝は俺が取る。」↑坂本

「あれ、お前って何か特別すごいものってあったっけ？」↑俺
俺が知ってる限り無いはずだ。

「そんなのではない。だが翔子への必勝法はある。」↑坂本

「霧島への必勝法？」↑俺

「ああそうだ。あいつはあの問題が出れば確実に間違う。」↑坂本

「その問題ってなんなんじゃ。」↑秀吉

「大化の改新だ。」↑坂本

「大化の改新じゃと？中臣鎌足と中大兄皇子と言うことかの？」↑秀吉

「いやもつと簡単だ。」↑坂本

「じゃあ645年に起きたとしかか？」↑俺

「正解だ。この問題が出れば確実にあいつは間違える。」↑坂本

「なんでなんじゃ？」↑秀吉

確かにそうだ。学年一位で覚えたことは、絶対に忘れないとまで言われるのにどうして…

「昔、俺が翔子に間違えて教えてしまった。」↑坂本

なるほど分かった。

「坂本、お前、霧島とはどんな関係なんだ。名前で呼び合っていたが。」↑俺

「ああ、ただの幼馴染だ。」↑坂本

「全員構え!!」↑吉井

ガサツ

何で全員、坂本に向けてスリッパを向けている。ああ、分かったそういうことか。幼馴染が妬ましいだけか。

「雄二、一人だけ抜け駆けして、死の鉄槌を加えなきゃいけないね。」↑吉井
「まったく幼馴染がいるだけで殺されなきゃいけないのかこのクラスは。」

「全員放てー」↑吉井

「「「「「死ねー」」」」」」

流離のコガラシだよ。今日も三国志からで呂布だよ。呂布はねー三国志最強の男らしいよ。なんかね数十人と戦ったり、素手で戦ったり、チートな人らしいよ。しかもこの人時代がそうさせたとはいえ、裏切る人だったんだよ。董卓を裏切り切り捨て、劉備の元に身を寄せつつもその劉備も裏切ったんだよ。けどこの呂布男らしくて魅力的だね、最近三国志の魅力を高める一人になってるらしいよ。「人中に呂布あり、馬中に赤兔あり」と言われていることから最強の男にふさわしいよねー。

12話

問題 世界史

○に当てはまる語を書きなさい。

1492年アメリカ大陸を発見した人は()である。

姫路瑞希の答え

コロンブス

教師のコメント

簡単ですね。

真田昴の答え

クリストファー・コロンブス (補足：しかし現代の多文化主義論者たちは、「発見

“などしていない」との見解で一致している。)

教師のコメント

まちがってませんが、補足は要りませんので。

吉井明久の答え

りっぱ

教師のコメント

確かにりっぱですが…

2時になった。

「今からAクラス対Fクラスの試験召喚戦争を始めます。」

そういうのは学年主任の高橋先生。通称高橋女史だ。簡単に説明するとキャリア
ウーマン然とした人だ。

「両者前に出てください。」↑高橋先生

「真田、頼んだぞ。」↑坂本

「任せとけ。人中に呂布と呼ばれた男に敵はいない。」↑俺

「こっちは私が行くわ。」↑木下

木下優子か。こいつは秀吉と違い学年の5本の指に入る。相手にとって不足はなしか。

「日本史でお願いします。」↑俺

良いことにこっちは科目選択権を4回もらっている。

「えっ…、数学じゃないの？」↑吉井

「吉井、俺は数学もできるがそれよりも歴史が得意だ。」↑俺

「真田がこういうんだ。こいつに任せるしかない。」↑坂本

「歴史が得意なの…。けど残念だったわね。先に行っておくけど、私、日本史も300点越えてるわ。AクラスとFクラスの差を見せて上げるわ。試験召喚獣サモン!!」↑木下

Aクラス 日本史

木下 321点

「うわー何あの点数。」↑吉井

「ワシらと全然違うのじゃ。」↑秀吉

「どう、ビビって出せないのかしら。なら私の勝ちね。」↑木下

「Aクラスってこんなもんなのか。」↑俺

「いつまでその強がりが続くのかしら。」↑木下

「分かったよ、見せてやる。試験召喚獣サモン!!」↑俺

Fクラス 日本史

真田 485点

「「485点」」

「何よあんな点数!?!」↑木下

「僕の合計点ぐらいだよ。」↑吉井

「すごいじゃ。これなら姉上に勝てるのじゃ。」↑秀吉

「つたくそれぐらい俺に先に教えろよ。」↑坂本

「悪い悪い、びつくりさせたくて。」↑俺

「けど召喚獣の扱いは私の方が上のはず。」↑木下

「そう言うといきなり突っ込んできた。おいおい性格が完全に出てるぜ。ひよいっとな

「よけられた!?!」↑木下

「当たり前だろ、あんな単調な攻撃。」↑俺

「単調な攻撃ですって、ならこれなら…」↑木下

ひよいっとな

「またよけられた。私の方が召喚獣操作に慣れてるはずなのに…」↑木下

「ひとつ勘違いしてないか、木下。お前よりも俺の方が召喚獣操作、うまいと思うぞ。」↑俺

「なんですつって!!」↑木下

「俺なここ最近、帰りに鉄人に頼んで召喚獣の操作の練習やったんだよ。こんなように。」↑俺

グサツ

Aクラス 日本史

木下 278点

あーやつぱりこの点数差でもダメージ少ないな。流石木刀。

「しかしダメージは少ないわ」↑木下

「ならこれはどうだ。アウェイン。」↑俺

「そつ、それは?!」↑木下

そうこれは腕輪能力、400点以上の時だけ使えるものだ。ちなみに400点以上はAクラスでも使えるのは指折りだ。

二刀流の木刀を前でクロスさせ攻撃する。

「旋風斬!!」↑俺

Aクラス 日本史

木下 182点

「まだ点数は残ってるわ」↑木下

「そいつは無理だぜ。かまいたち!!」↑俺

Aクラス 日本史

木下 85点

「そしてもう一撃!!」↑俺

Aクラス 日本史

木下 0点

「一回戦勝者、Fクラス!!」↑高橋先生

「何よ。今の…。」↑木下

「それは旋風斬でできた2つのかまいたちだ。これを成功させるのに苦労した。」↑俺

「そんなことよりご苦労だった。」↑坂本

「お前から感謝の言葉がもらえるなんてな。てつきり勝って当然だなんて言うかと思っ
たぜ。」↑坂本

「勝つのは前提だか正直、危険なかけだった。しかし今はこっちに風は向きつつある。」

↑坂本

「次の人、準備してください。」↑高橋先生

「読んでるぜ次は誰がいくんだ？」↑俺

「モブAです。数学でお願いします。」↑モブA

「ここはウチに任せて。数学ならBクラス並みだから。」↑島田

「頼んだぞ。」↑坂本

「島田美並です。お願いします。」↑島田

「お前、全く期待してないだろ。」↑俺

「当たり前だろ、わざわざ数学選んできたってことは、Aクラスでもトップクラスだろう。Bクラスレベルで勝てる相手じゃない。」↑坂本

「確かにそうだが、応援ぐらいしてやれよ。」↑俺

「それぐらいはするつもりだ。」↑坂本

「二人とも出してください。」↑高橋先生

「私、数学はBクラス並みだから」↑島田

「貧乳には興味ない。早く始めましょう。」↑モブA

「試験召喚獣サモン!!」

Aクラス 数学

モブA 401点

Fクラス 数学

島田 275点

「僕は勿論、Aクラス並みだから。アウエイン!!」↑モブA

ヒュッ グサッ

Fクラス 数学

島田 0点

「2回戦、勝者Aクラス!!」↑高橋先生

「・・・」↑島田

「ドンマイ。」↑俺

「大丈夫だよ、美並。もともと負ける予定だったんだから。」↑吉井

「それってどういう事なのよ!!」↑島田

「美並、調節はそっちにはまがががgいたいいたいいたい。」↑吉井

いつもの調子に戻ったようだ。

「次は誰にするんだ?」↑俺

「私が行きます。」↑姫路

「んじゃ姫路でいいぞ。」↑坂本

「ありがとうございます。」↑姫路

「次の人来てください。」↑姫路

「頑張れよ。」↑俺

「はい!!」↑姫路

「Aクラス次席の久保利光です。科目は総合科目でお願いします。」↑久保

「ずるいのじゃ、今回はこつちじゃぞ。」↑秀吉

「いいですよ木下君。Fクラス、姫路瑞希です。よろしくお願いします。」↑姫路

久保利光、Aクラスナンバー2。一部のあいだでは吉井のことが好きな、同性愛者と
言われている。

「試験召喚獣サモン!!」

Aクラス 総合科目

久保 3671点

Fクラス 総合科目

姫路 3847点

「つく、姫路さんいつの間にそんなに……」↑久保

「私、このクラスが好きです。たまにバカなことしちゃうことあっても、みんな優しく
良い人たちです。みんなでもっと楽しみたいです。だから、アウェイン!!」

「なんだ!？」 ↑久保

「私は頑張れるんです。」 ↑姫路

Aクラス 総合科目

久保 0点

「三回戦、勝者Fクラス!!」 ↑高橋先生

流離のコガラシだよ。今日は伊達政宗について紹介するよ。伊達政宗といえば「独眼竜」だよ。政宗がちっちゃかった頃、天然痘って言うね病気でね失明しちゃたんだよ。そのあとね隻眼となったことから、こう呼ばれるようになったんだって。この独眼竜は

中二：じやなかつたカツコいいけど、この言葉が付けられたのは明治時代になってからで、だから明治時代の人も中二：じやなかつたカツコいい言葉を考える人がいたんだね。

13話

問題 保健体育

テニスでQ：2対2で行う試合をダブルスといいます。では1対1はなんといいましょう。

姫路瑞希の答え

シングルス

教師のコメント

流石ですね。

坂本雄二の答え

決闘

教師のコメント

後で職員室に来てください。

吉井明久の答え

デスマッチ

教師のコメント

・・・後で坂本君と職員室に来てください。

「瑞希、お疲れ様。」↑島田

「よくやった。」↑坂本

「いえいえ私なんて全然…。」↑姫路

「姫路、今まで気づかなくてごめんな。」↑バカ

「姫路がそんなに俺たちのことが好きだったなんて。」↑バカ

「いえっ、そんなつもりで言っただんじや無くて…。」↑姫路

「姫路、こいつらに何言っても無駄だ。あきらめろ。」↑俺

まったく姫路もあんな風に言ったら、あのバカたちが誤解することぐらい分かってほしいな。

「姫路さん、デートに行きましょう。」↑バカ

「そんなことより、ホテル予約しときましたんで。」↑バカ

あのバカたちまだやってるのか。

「次は誰を犠牲にするんだ。」↑俺

「つふついに来たぜ。あいつを使う番が。明久!!」↑坂本

「何?」↑吉井

「次はお前で行くぞ。」↑坂本

「えっ…どうして僕が?」↑吉井

「この役にお前ほど適してるのはいない。」↑坂本

犠牲にしろ、流石に今までの経験上だまさ…

「分かったよ。姫路さんも頑張ったし僕も頑張るよ。」↑吉井

…れました。吉井、ホントバカだな。さすがにこの坂本が適してるとか言ってるんだから、犠牲以外ないだろ。

「次の人来てください。」↑高橋先生

「行つてくるよ。」↑吉井

「お大事にな…。」↑俺

「??」↑吉井

「モブBです。科目は英語でお願いします。」↑モブB

「吉井明久だよ。遂に本気を出す時が来たね。」↑吉井

「明久!!お前の本気を見せてやれ。」↑坂本

吉井つてすごいのか?そんな声が聞こえてくるがまず間違ひなく出まかせだろう。

「本気を出したところで勝つ!!試験召喚獣サモン!!」↑モブB

Aクラス 英語

モブB 389点

井 「じゃあ僕の本気を見せてあげるよ。試験召喚獣サモン!!実は僕、左利きなんだ。」↑吉井

グサツ

「いたーい、何これ、足がもげるーーーギャー」↑吉井

「テストに利き腕は関係ないでしょー」↑島田

Fクラス 英語

吉井 0点

フィードバックもそうとうだろうな。それより点数が出される前に終わるなんて。

「4回戦、勝者Aクラス!!」↑高橋先生

「予想通りだ。実に気分がいい。」↑坂本

「雄二!!僕への期待はどうした。」↑吉井

「期待?誰がお前に期待する。」↑坂本

「ムツキーツ、昴はちよつと期待したよね?」↑吉井

「微塵も期待してないぜ。」↑俺

「もうみんな嫌い!!」↑吉井

「次の人来てください。」↑高橋先生

「ムツツリーニお前の番だ。任せたぞ。」↑坂本

「了解:保健体育でお願いします:」↑ムツツリーニ

「工藤愛子です。B78・W56・H79です。土屋君も保健体育そうとうらしいけど、僕は実践派だからね。知識よりも実技の方が強いって見せて上げるよ。試験召喚獣サモン!!」↑工藤

Aクラス 保健体育

工藤 452点

「試験召喚獣サモン…」↑ムツツリーニ

「ボクの勝ちだね。ムツツリーニ君」↑工藤

「加速…」↑ムツツリーニ

ヒュッ

「加速終了…」↑ムツツリーニ

Aクラス 保健体育

工藤 0点

今何が起きた!?ムツツリーニの召喚獣が消えたと思ったら工藤の点数が…それよりムツツリーニのあの点数なんだ!?

Fクラス 保健体育

土屋 568点

「」「」「568点!」「」「」

「今起きたの何よ!?!」↑木下

「一瞬消えたよな。」↑モブA

「ムツツリーニ、よくやった。」↑坂本

「5回戦、勝者Fクラス。」↑高橋先生

「このボクが保健体育で負けるなんて…」↑工藤

568点とか俺の歴史でもとれないと思うぞ。まあそれよりこれであと一勝だ。

「次はどうするんだ？」↑俺

「次？だれでもいいぜ。須川行つて来い。」↑坂本

「な、なぜ俺が行かなきゃいけないんだ。」↑須川

「じゃつ武藤行つて来い。」↑坂本

「そんなわざわざ負けに行くなんて、恥さらしはヤダぜ。」↑武藤

負けると分かっているだけ、吉井よりは良いと思うがこれなら

「お前らよく考えろ。相手はAクラスだがここでお前たちが勝てばどうなる？明日から

システムデスクにさらに勝利した奴は明日からモテモテだぞ。」↑俺

ピクツ

「仕方がないここは人中に呂布と呼ばれた俺が…」↑バカ

俺のをパクるな。

「さてここは平成の真田幸村と呼ばれた俺が…」↑バカ

それは、俺の先祖だ。

「まつ、待てここは平成の…」↑バカ

モテモテの言葉に反応しすぎだろお前ら。ひとつ言っておくがお前らが勝つても絶

対もてないからな。

「次の人来てください。」↑高橋先生

「」「」「俺が行こう。」「」「」「」

「もういいじゃんけんで決めろ。」↑俺

「」「」「じゃんけんぽい」「」「」「」

「」「」「あいこでしょ」「」「」「」

普通に考えて決まらないだろその人数じゃ、けどみんなパーって頭もパーってことか。

「」「」「あいこでしょ」「」「」「」

「やったー。これで今日からモテモテだ。」↑須川

どうやら須川が勝ったようだ。しかし須川、お前じゃ絶対にモテないぞ。

「俺は須川涼。FFF団の会長だ。お前に勝って俺はモテモテになる!!」↑須川

「へえ、私に勝とうって？私はモブC。あんたに悪いけど負けるつもりはないから。あとあんたじゃ絶対にモテてないよ。」↑モブC

「なっ、何を言うんだ。絶対に俺が勝ってモテてやる!!」↑須川

「好きにすれば。化学でお願いします。試験召喚獣サモン!!」↑モブC

Aクラス 化学

モブC 399点

「おい、武藤。仕方ない。お前に代わってやる。よくよく考えれば俺はモテモテだった。」↑須川

「いや、俺もやっぱいいいよ。」↑武藤

「じゃあ…」↑須川

「「会長お願いします。」」

「FFF団会長の力を見せてください。」↑バカ

「そうです。お願いします。」↑バカ

こいつら、相手の点数見て現実を思い知ったようだ。まあせいぜい死んでくれ。

「つち、チクショー。やってやるよ!!試験召喚獣サモン!!」↑須川

スパッ

Fクラス 化学

須川 0点

予想通り瞬殺だな。吉井並みの死にかただったぞ。しかしこれで3対3。後は坂本に託そう。

流離のコガラシだよ。今日は直江兼統を紹介しちゃうぞー。兼統はね、頭が良く武芸に優れ、文武両道今でいう優等生って感じだよ。しかも政治面でも軍事面でも活躍してたんだよー。しかも!!長身で立派な体格をしていて、眉目秀麗、弁舌巧みで明朗、という容姿までかんぺきだったらしいよ。なんだこのパーフェクトな人!!兼統はほかにも“愛”って字でかたどって、兜に付けてたので有名だよねー。けど愛というのがLOVEの方じゃないことを願うよ…

14話 第一次試験召喚戦争編 閉幕

問題 英語

次の単語を訳しなさい。

a l i e n

姫路瑞希の答え

異星人

教師のコメント

簡単ですね。

土屋康太の答え

アリエン

教師のコメント

確かにありえないかもしれないけど：

吉井明久

！ (" (' (% % (!

教師のコメント

異星人っているんですね。

「坂本、頼んだぞ。」↑俺

「ああ、任せろ。ここまでしてくれたことに感謝するぞ。」↑坂本

「頑張るのじゃぞ。」↑秀吉

「お願いします。」↑姫路

「後は任せた。」↑ムッツリーニ

「ああ、任せろ。」↑坂本

「次の人来てください。」↑高橋先生

「私はAクラス代表、霧島翔子。」↑霧島

「俺はFクラス代表、坂本雄二だ。科目は日本史。小学校レベルの100点満点のペーパーテストだ。」↑坂本

何言つてんだなどの声がAクラスから聞こえてくる。まあこれが勝つための唯一の方法だ。

「分かりました。では二人は付いてきてください。」↑高橋先生

テストは視聴覚室でやるようだ。向こうの様子はカメラを通して分かる。

「では、始めてください。」↑高橋先生

問題 日本史

○ 内に当てはまる年号を書きなさい。

① () 年に源頼朝は鎌倉幕府を開いた。

② () 年に遣唐使を廃止した。

~~~~~

⑧ ( ) 年に大化の改新が始まった。

よし勝った。これでボロイFクラスは終わりだ。

~~~~~

「結果を発表します。Aクラス霧島翔子 99点」↑高橋先生

まつ、まさか、俺達の方が負けるなんて、そんな声が聞こえてくる。

「やったこれで俺たちもシステムデスクだ。」↑バカ

「これでモテモテだ!!」↑バカ

「ホテルの予約しとかなきゃ。」↑バカ

安心しろ。お前らはモテないし、ホテルの予約も無駄だ。

「Fクラス坂本雄二 54点」↑高橋先生

「「「ほえ?」」」

「雄二、どういうことだ。」↑吉井

「おい、お前…小学校レベルで54点かよ。」↑俺

「すまん。思ってたよりも難しかった。」↑坂本

「何が思ったよりも難しかっただよ。この糞ゴリラ。」↑吉井

お前だって別に勝ってないだろ…

「あーこれで俺達のモテモテライフが…」↑バカ

「つち、こんなことなら俺が行くべきだった。」↑バカ

いやお前らは結局モテないし、お前が行っても結果は変わらないと思うぞ。て言うかFクラスのレベルはこんなもんだったか。やっぱりな。今頃だがまた振り分け試験、寝坊したことを後悔するぜ。

「雄二、約束覚えてるよね。」↑霧島

おつとそうだった。そういやそんなことがあつたな。

「約束？ 負けた方が言うこと聴くだろ。」↑坂本

「雄二、それは姫路さんに許可取ってから……ムツツリ——ニ撮影の準備早いよ。……一枚買
うよ……」↑吉井

「ボタボタ。カメラの準備よし。光かげんよし……」↑ムツツリ——

「何気に頼むな。」↑俺

しかし霧島はなにを頼むんだろう？

「雄二、私と付き合つて。」↑霧島

……

「全員構え!!!」↑吉井

ザッ

「お前ら一旦スリッパを下せ。翔子、お前まだあきらめて無かったのか。」↑坂本
あれ？坂本はこの展開を予想してたのか？

「うん…」↑霧島

「つたくあれはお前の勘違いだろ。」↑坂本

「でも約束は約束。雄二は私と付き合う。」↑霧島

ブチッ

おや吉井から何か音がしたぞ

「雄二!!負けたくせに一人だけ良い目に!!全員放てー」↑吉井

「「死ねー」」

その後のFクラス。

スリッパを放った後、坂本は霧島にこれからデートということ、なぜか手錠につながれていた。霧島が言うに、「雄二は照れ屋だから。」らしい。

「つく、クソ、雄二め。」↑吉井

「戦死者は補習!!」↑鉄人

「「えっ?」」

そして補習室にて

「真田君ね。今度こそ負けないから。」↑木下

「ムツツリーニ君か。ふつ面白いね。今度こそ負けないよ。」↑工藤

「つく雄二め。悠々とデートなんて。」↑吉井

「吉井君、教えてあげようか？」↑久保

「久保君、いいの？ありがとう。」↑吉井

「礼を言いたいのは僕の方だよ。吉井君と一緒に勉強できるて。」↑久保

「???」↑吉井

「あーもう何で負けちゃうのよ。」↑島田

「お姉様。豚野郎のことは忘れてしましましょう。」↑清水

「それもそうね…って美春!?!なんであんながここにいるのよ!!」↑島田

「お姉様が補習と聞いて入れてもらいました。さあ保健体育の実技をしましょう。そして元気な女の子を産みましょう。」↑清水

「美春、何度も言うけどウチと美春じゃ、子どもは産めないのよ!!」↑島田

「愛さえあれば関係ありませんわー。」↑清水

「ウチと美春に愛なんてない!!」↑島田

「お前らうるさいぞ。補習2時間追加!!」↑鉄人

「何でいつもこうなのー」↑島田

「お姉様とならへっちゃんらですわー」↑清水

はろはろ流離のコガラシだよ。今日は雑賀孫一さんだよ。雑賀孫一はね雑賀衆の頭領なんだよ。この雑賀衆っていうのはね当時珍しかった鉄砲を、ふんだんに使い高い技術をもった人たちだよ。でねこの雑賀孫一さんはね織田信長が台頭してくると信長勢を苦しめ、豊臣秀吉が台頭してくると秀吉を、関ヶ原の戦いでは西軍につと必ず敵の方にいるんだよ。けどね雑賀孫一って不明な点が多いらしいよ。その原因の一つに、孫

「って言うのを複数で使う通し名だったらしいよ。けどどこうふうに敵の方にいて、有名な武将を苦しめた人って応援してあげたくなっちゃうね。」

15話 バカと俺と危険な休日

質問

ナンパされている人がいて、その人が嫌がつてるときあなたはどうしますか。

真田昴の答え

その人の彼氏のふりして「待ったー？」とか言つてその場から一緒に立ち去る。

教師のコメント

なるほど。うまい方法ですね。

土屋康太の答え

ナンパした奴に死の鉄槌を。

吉井明久の答え

ナンパした奴に死の鉄槌を加え、その女の子をナンパする

須川涼の答え

ナンパした奴に死の鉄槌を加え、その女の子をナンパする

武藤モブ太の答え

ナンパした奴に死の鉄槌を加え、その女の子をナンパする

教師のコメント

学校外の人に迷惑をかけないで下さい。

召喚戦争も終わり休日だ。忙しかった二週間だったな。今日はバカどもに遭わなくて済むから平和に過ごさせるな…

「ちよつとそこの姉ちゃん。俺らと一緒に遊ばない。」

「え…あつその…。」 ↑木下

おつあれは秀吉？いやスカート履いてるから木下の方か。たぶんナンパされてるの

だろう。知り合いじゃなかったら助けないかもしれないが一応知ってるし、それに困ってるばいしな。いっちょ助けてやりますか。

「木下。待った？」 ↑ 俺

「真田君!!…えっ…あつ、うん遅いよー」 ↑ 木下

木下も俺の意図をさっしてくれたようだ。これなら…

「木下。この人たち知り合い？」 ↑ 俺

「違うわよ。話しかけられただけよ。」 ↑ 木下

「じやいいね。これから遊びに行くんでそれでは〜」 ↑ 俺

よしこの調子でここから離れれば…

「おい、ちよつと待ちー」 ↑ モヒカン

チツ、なんだばれたか？

「俺らこの姉ちゃんとか今から遊ぶわけ、だからどつか行ってくれない。」 ↑ モヒカン

「何言ってるのよ。何であんたたちとなんか遊ばないといけないわけ。」 ↑ 木下

「こう言ってるが？」 ↑ 俺

「俺らと遊ぶの。お前ら連れて行け。」 ↑ モヒカン

「OKっす」 ↑ モブ

「いやっ、やめて。」 ↑ 木下

「お前ら恥ずかしくないのか。こんな可愛い女の子をそんなふうにして。」↑俺

「つぶ、お前は見逃してやろうと思ったが、そんなふうに言われるんじゃない。お前ら俺達の力を見せてやれ」↑モヒカン

「OKです」↑モブ

「たたくやれやれ。どうしてすぐ暴力になるのか。俺の平和な休日はどうしたんだよ。まあ良かったはFクラスがあんなんだから、念のため木刀持つといて。」

「背中から木刀!? だったらこっちも使わせてもらうぜ。」↑モブ

ナイフか。けどそういうのって

「負けフラグって知ってる?」↑俺

「なんだ言いわけか? いまから土下座して、許してくださいって言えばお前は許してやってもいいぜ。」↑モブ

「まったくまた負けフラグをつくってやがる。」

「主人公なそういうふうに来る悪役ってな負けるんだよ。知らない?」↑俺

「なんだと貴様。強がりやがって…これでもどうだ。オリヤー」↑モブ

ひよいつやつと

「痛つてえ。」↑モブ

「弱すぎって話にならない。剣道6段をなめってもらっちゃ困るな。」↑俺

「チツ、オメーラ行くぞ。」↑モヒカン

「OKーっす」↑モブ

ふう去つてくれてよかった。

「ありがとう。お礼をするわ。」↑木下

「いやべついいよ。これぐらい。」↑俺

「いや、お礼しないと私がなんだか行けない気がする。」↑木下

「そう？じゃあお言葉に甘えて。」↑俺

という訳で、喫茶店にいる。紅茶とアップルパイをおごってもらっている。

「さつきあんなところで、可愛いとか言わないでよね。」↑木下

さつき・ああ、あのときか。

「いや別に本当のこと言っただけだから問題ないだろ。実際可愛いし。」↑俺

「可愛いって…けど秀吉の方が可愛いでしょ？」↑木下

「どっちも可愛いと思うぞ。人はそれぞれ違うからな。秀吉は秀吉でお前はお前でいいと思うぞ。しかも秀吉は男だからな。好きになるんだったらお前の方だと思うぞ。」↑

俺

「すつ、好きになるほうって…(テレテレ)」↑木下

どうして赤くなってるんだ？俺変なこと言ったっけ？まあいいや。それより

「秀吉には助かってるな。」↑俺

「助かってるって？(テレテレ)」↑木下

「秀吉はFクラス、俺除くと唯一まともだからな。」↑俺

「確かにそうわね。けど秀吉、〃ワシ〃とか一人称で使ってるのよ。(テレテレ)」↑木下

「けどそれぐらいならましな方だぞ。」↑俺

「それぐらいがましな方って、Fクラスはすごいよね。(テレテレ)」↑木下

「ああ吉井を筆頭として、坂本、ムッツリーニ、FFF団、それに姫路に島田だ。」↑俺

「姫路さんや島田さんもの？(テレテレ)」↑木下

「ああ、姫路に料理を作らせれば、天下一品の破壊力だし、島田は吉井の関節曲げてるし。」↑俺

ちなみに俺は姫路の料理を一回しかたべてない。

「たいへんなのね。なんで頭いいのに真田君Fクラスなの？(テレテレ)」↑木下

「あつああそれはだな、ちよつとな。」↑俺

「ちよつと何よ(テレテレ)」↑木下

「それはだな振り分け試験のときにな、寝坊しちゃつてな…」↑俺

「寝坊!? 真田君でもそういうことあるんだね。(テレテレ)」↑木下

「仕方ないだろ。朝苦手なんだから。それよりお前さつきから顔赤いぞ。熱でもあるんじゃないか?」↑俺

「ちつ違うわよ! 別に真田君と話していて楽しいからとか、好きになるならお前の方だ。とか言われたからじゃ絶対無いからね。ちよつと暑いだけよ。(テレテレ)」↑木下

あまりの早口でほとんど聞こえなかつたぞ。

「とりあえず大丈夫つてことだな。」↑俺

「あつ、あれは真田に木下優子!! 抜け駆けしたな。」↑バカ

モヒカンの次はFクラスのバカか。

「木下。とりあえず逃げるぞ。」↑俺

「分かつたわ。あつお金お願いします。」↑木下

「逃げ切れたか?」↑俺

「見つけたぞ、真田!!」↑バカ

流石FFF団の会員だけはある。執念だけは人一倍か。

「さあ優子さんこつちくるんだ。」↑バカ

「なんであんたの方に行かなきゃいけないといけないのよ。下の名前で呼ばれたくない

し。」↑木下

「仕方ないここは真田を倒し…」

ゴスツ ドカ

「ふう、片付いた。」↑俺

「ありがとね、一度だけじゃなく二度も助けてくれてありがとね。(テレテレ)」↑木下

「いや別に今回は俺に対する恨みだったし。」↑俺

「けどFクラスってホントクズね。真田君とは大違いね。(テレテレ)」↑木下

「じゃあもうそろそろ帰るかな。」↑俺

「えっもう帰るの。」↑木下

「ああ、お礼もしてもらったし、これ以上悪いだろ。」↑俺

「悪いなんて…まあ予定とかあるよね。じゃあ、じゃあねー。」↑木下

「あっちよっち待ち。携帯貸して。」↑俺

「えっ…あついいわよ。はい」↑木下

カチャカチャ

「はい、俺のメアドいれておいたから。」↑俺

「えっ…ありがとう。(テレテレ)」↑木下

「じゃこれで、じゃあねー」↑俺

「じゃつ、じゃあねー。(テレテレ)」↑木下

その後の木下優子

「ただいま。」↑木下

「お帰りなのじゃ。」↑秀吉

「秀吉、真田君ってどう人？」↑木下

「真田じゃと、真田は歴史好きで頭が良くて、前の召喚戦争も、真田と雄二の作戦でもあるんじゃよ。それよりどうして真田のことを知りたいのじゃ。まさか薄い本の妄想に…姉上関節はそつちに曲らんのじゃ。」↑秀吉

「秀吉、それ以上言ったら殺すわよ。そんなんじゃなくてただ今日、ナンパされたときに助けてくれたのよ。」↑木下

「真田がじゃと。ワシからもお礼を言っておくのじゃ。」↑秀吉

（真田君は私のほうが秀吉よりいっていつてくれた。こんなの初めて。いつも秀吉と私だと、秀吉の方ばかりに人気があった。真田君といると心がポカポカする感じ。こんな感覚初めて、これって私、真田君のこと好きってこと？分かんない。あつ、そういえばメールアドレスしてもらったんだ。なんて送ろう。今まで、メールなんてAクラスの人たちぐらいだったから、しかも送ったことほとんどないし。どうしよう。）

「真田君……」

はろはろ流離のコガラシだよ。真田君と優子ちゃん気になるね。それより今日は、三国志から諸葛亮だよ。諸葛孔明の方が分かりやすいかな。蜀の劉備さんに仕えていたんだよ。諸葛亮は優秀な策士だったんだよ。この人は奇策があまり好きじゃなくてね、ほぼ確実に勝てるかと踏んだ時にしか攻めなかったらしいよ。だからよく魏延と対立してたらしいよ。そんなことより身長が180以上あったらしよ!!なんかみんなすごいね。身長高かったり、美少年だったり、天才だったり、どこまで本当のことなのか疑わしくなっちゃうね。

16話 バカと俺と昼食タイム

質問

あなたがカレーを作るとき隠し味に何を入れますか。

真田昴の答え

コーヒー

教師のコメント

コクがでておいしいですよね。

吉井明久の答え

愛情

教師のコメント

ロマンチックですよ。

姫路瑞希の答え

硫酸

教師のコメント

冗談ですよ、入れたら舌が溶けますね。入れるのは絶対にやめましょう。

島田美並の答え

ブルドック

教師のコメント

ソースの間違えですよ。日本語が不慣れかも知れませんが頑張りましたよ。

休日も終わり、Fクラスに行かないといけない。はあーやだなー。

「おはよう、昴くん。」↑吉井

「おはよう…」↑俺

「昴くん元気ないね、どうしたの？」↑吉井

「ただなー、お前みたいな馬鹿ばっかのクラスに、行くとなると気が重くなるんだよ。」↑

俺

「今さらつと僕をバカだつて言わなかった？」↑吉井

「ああ、がつつり言つたぞ。あとお前は学校一のバカなんだから、まるで自分はバカじゃない見たいなこと言つてんじゃねえよ。」↑俺

「昂くん、悲しくなるからそれ以上言わないで……」↑吉井

教室に行くときゃぶ台がミカン箱になつていた。これはひどい。

「お前ら席に付けー」↑鉄人

「……鉄人!」

「何で鉄人がいるんだ。」↑坂本

「ああ、お前らが馬鹿すぎるから担任になつてしまった。」↑鉄人

「……はあ?」

「なんで鉄人なんだよまだ高橋史女の方が……」↑バカ

「そもそもFクラスには担任が無いんじゃないのかよ。」↑バカ

「今日からFクラス担任の西村宗一だ。お前らを0から鍛え直してやる。」↑鉄人

「……ひえ……」

「大変だね。Fクラスは。」↑工藤

「ああ、明久を筆頭としたクズばかりで困るぜ。その上鉄人なんてな。」↑坂本

「雄二、僕をバカ扱いするなんて…。」↑吉井

「実際バカだろ。」↑俺

「もうやだ。」↑吉井

今は昼。なぜかAクラスの人たちが来ていて、俺、吉井、坂本、秀吉、ムッツリーニ、島田、姫路、Aクラスメンバーは霧島、久保、木下それに工藤だ。

「けどFクラスは楽しそうでいいねー。」↑工藤

「なにが楽しいのよこのクラス。」↑木下

「優子、Aクラスに戻ればー（ニヤニヤ）」↑工藤

「Aクラスとしてみんなの模範とならないといけないのよ。」↑木下

「へえー、真田君に会いに来たとかとかじゃないんだ〜（ニヤニヤ）」↑工藤

「なっ、何言ってるのよ!!これはみんなの模範となるためで…。」↑木下

「優子あせりすぎー」↑愛子

気にしないでおくか。

「僕はこのクラスいいと思うよ。」

…吉井君がいるし。」↑久保

「久保君呼んだ？」↑吉井

「よっ、吉井君!! 吉井君は弁当はどうしたんだい？」↑久保

「食べてないよ。」↑吉井

「食べてない!!? それはいけない。僕の弁当をあげるよ。」↑久保

「弁当を!!? けどそしたら久保君のがなくなっちゃうじやうじやん。だめだよ。」↑吉井

「いいんだよ。僕、朝食ベすぎちやつておなかいっぱいだから。」↑久保

「いいの!?! ありがたく食べるよ。いったきまーす。もぐもぐ、これ久保君が作ったの

?」↑吉井

「そうだよ。」↑久保

「もぐもぐ、おいしいよ。これ」↑吉井

「明久君、私弁当作りすぎちゃったんですけど、食べますか?」↑姫路

「えっ、あのその、久保君からもらったのがあるからいいよ。」↑吉井

うんこつちも気にしないでおくか。

ガラッ

「お姉様!! 美春と一緒に弁当を食べましょう。」↑清水

「美春!!」↑島田

このままだと面倒なことになりそうだから…

「清水。島田と弁当いっしょに食べていいから別の場所行ってくれ。」↑俺

「真田。私を売る気!!」↑島田

「じゃあお姉様、屋上にでも行きましょう。」↑清水

「いやー」↑島田

島田がかかかわるとすごいな、島田を引っ張って行ってるぞ。

「お姉様。デザートは美春ですからね。」↑清水

「いやあー」↑島田

いやーこれで少しは静かになる。

「外道だなお前。」↑坂本

「お前にだけは言われたくないな。」↑俺

「雄二、はい、あ〜ん。」↑霧島

「オイ待て翔子。俺はちゃんと弁当あるし、自分で食べるからな。」↑坂本

「雄二、はい、あ〜ん!」↑霧島

「おい話を聞いているか?」↑坂本

「雄二、はい、あ〜ん!!」↑霧島

「おい、翔子。」↑坂本

「雄二はいけない。約束した。付き合うって。恋人はこうするって雄二のお母さんが言ってた。」↑霧島

「くっ、お袋め!!」↑坂本

「だから雄二、はい、あくん」↑霧島

「俺は普通に食うからな。」↑坂本

「雄二のイジワル…」↑霧島

「いやーほほえましいね。」↑工藤

「何がほほえましいよ。」↑木下

「優子も真田君にやってあげれば。(ニヤニヤ)」↑工藤

「どっ、どうして真田君に…」↑木下

「じゃあボクがやってこよっかな(ニヤニヤ)」↑工藤

「だめよ。」↑木下

「何でだめなの。(ニヤニヤ)」↑工藤

「なんでって…なんでもいいでしょ!!」↑木下

「まったく素直じゃないなー優子は。」↑工藤

「にぎやかじゃの。」↑秀吉

「ああ、Fクラスに更にAクラスのこのメンバーだからな。」↑俺

「姉上も素直になればよいのに。あれじゃ気付かれてもおかしくないの。」↑秀吉

「何言ってるんだ？」↑俺

「なんでも無いのじゃ。」↑秀吉

「とりあえず俺は平和なクラスがいいな。」↑俺

「今日はいい写真が撮れた。ボタボタ。」↑ムッツリーニ

「こんなんがないクラスに。」↑俺

ムッツリーニ鼻血をいちいち出しすぎだぞ。まあばれないところはすごいと思うが

：

その後の島田と清水

「お姉様、弁当を食べましょう。」↑清水

「真田、覚えときなさい。」↑島田

「デザートは美春ですよ。」↑清水

「美春、弁当食べるために服を脱ぐ必要はないのよ。」↑島田

「さ、お姉様も服を脱いで。」↑清水

「いやよいや、いやああー」↑島田

後は想像にお任せします。

はろはろ流離のコガラシだよ。今日は竹中半兵衛だよ。この人はね戦国を代表する天才軍師なんだよ。だからね「孔明」って言われてるんだよ。この「孔明」って言うのは前回紹介した、「諸葛亮」さんのことだよ。「その容貌、婦人の如し」って資料に残るぐらい女性的だったらしいよ。すごいのは武術もすごくて、16人ほどで、城を占領したことがあるんだよ。これが「稲葉山城乗っ取り」なんだよ。しかも竹中半兵衛さんかつこ良すぎてねその城を返しちゃうんだよ。何この人軍略だけでなくかつこよさも手に入れる方法、考えるなんて…天才すぎでしょ。流石は天才軍師、やることが違うな」

Ohキドの講座

久しぶりじゃの。一話以来かな。さて今回から不定期で始まったワシの講座じゃ。今回は流離のコガラシのバカテスの好きな登場人物を言うぞ。

ムツツリーニ<秀吉>優子<愛子>雄ニ||明久||翔子||姫路||久保||FFF団||根本<
小山<<<清水<<<<島田

らしいぞ。まあこれは今まで出てきた人物であってこれからどうなるか分からんが
の。しかしムツツリーニの扱いが難しいらしい。あとのキャラは常識人だったり、ヒロ
インだったり、ホモだったり、して出番なるけどムツツリーニは基本無口じやからの。
今後ムツツリーニを中心とした話を作りたいらしいぞ。